

授 業 要 綱

2026 年度（令和 8 年度）

理学療法学科 昼間部

専門学校 社会医学技術学院

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	基礎力養成講座										
担当者氏名	林 佑樹										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										○
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										○
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

ディプロマポリシーで掲げる理学療法士養成への円滑な導入を図るために、社医学での生活上のマナー、スタディスキル、キャリア形成を身につける。

《テキスト》

指定しない

《参考図書》

指定しない

《行動目標(SBOs)》

1. 専門学校における学びの意義を理解し実践する。
2. 医学を学ぶためのスタディスキルを習得できる。
3. 主体的に学ぶとする態度を有している。
4. 医療人として適切な態度を示し、実践する事ができる。
5. 社会人・医療人としてのマナーを習得できる。

《学生の留意点》

理学療法士養成教育の初年度の導入が円滑に進むために設定された科目です。未来の理学療法士としての自覚を持ち、身につけたスキルを日々の学校生活で実践していくことを意識してください。各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施しない

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験から臨床現場に即した授業を展開します。

《成績評価の方法》

ポートフォリオ60％、レポート40％

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	林	オリエンテーション	カリキュラムマップ、シラバスの意義、Google Classroomの使い方、学院の利用方法、未来の理学療法士としての自覚
2	講義教室	林	社医学の一員としての基本事項	専門学校での学び方、受講マナー、連絡手段：電話・メールの送信方法、プロフェッショナリズム
3	講義教室	林	自己理解	自分の強みと弱みを把握する
4	講義教室	林	他者理解	他者を理解し、自分との違いを理解する
5	講義教室	林	学習方法①	科学的に有効な学習方法
6	講義教室	林	学習方法②	ノートテイキング
7	講義教室	林	図書の利用方法	図書を利用した学習方法、文章の読み方、要約、「考える」とは
8	講義教室	林	グループワークの基本	グループワークでの役割分担や協力する力を身につける、他者に伝える
9	講義教室	林	発表の仕方	発表の種類と準備
10	講義教室	林	スケジュール管理・目標設定	学修計画を立てる
11	講義教室	林	ITリテラシー	生成AIの活用方法と注意点
12	講義教室	林	レポートの書き方	レポートの書き方と注意点
13	講義教室	林	キャリア教育①	ジョブカードを活用したキャリア形成
14	講義教室	林	キャリア教育②	必修！ 基本の就活マナー講座：東京しごとセンター多摩
15	講義教室	兵頭/ 中村	ハラスメント/コンプライアンス	ハラスメント/コンプライアンス

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	情報社会と情報リテラシー										
担当者氏名	村上 知也、江川 賢一、坂田 晋一										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		DP1	人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人								
		DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人								○
		DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人								
		DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人								

《一般教育目標(GIO)》

私たちの生活を取り巻く「情報社会」の現状を理解し、正しい情報収集の方法、統計学を用いた情報の吟味、情報セキュリティ、さらに情報を取り扱う上でのマナーについて理解すること。

《テキスト》

指定なし。

《参考図書》

必要に応じて提示する。

《行動目標(SBOs)》

- 1) Google Classroomを利用できる。
- 2) 現代社会での「情報」の意義を説明できる。
- 3) 問題解決のための情報収集ができる。
- 4) 統計学を用いて情報を吟味できる。
- 5) 情報を取り扱う上でのセキュリティやマナーに配慮できる。

《学生の留意点》

情報社会の中で、医療分野へのデジタル技術の活用や進展が急速に拡大しています。本科目は、基本的な情報に関する知識から情報処理のための基本的統計学を習得し、専門分野へ応用することを目指した科目です。4回以降はオンデマンド型授業になります。各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施しない

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《成績評価の方法》

各回の課題で評価する(100%)。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における中小企業診断士、スポーツ科学の研究者、理学療法士としての実務経験を授業内容に活かした科目としている。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義・演習	坂田	情報リテラシー①	Google Classroom等のサービスの使い方①(坂田)
2	講義・演習	坂田	情報リテラシー②	Google Classroom等のサービスの使い方②(坂田)
3	講義・演習	坂田	情報リテラシー③	Google Classroom等のサービスの使い方③(坂田)
4	オンデマンド	村上	情報力とは	情報力とは(村上)
5	オンデマンド	村上	数字を読む力～数字に騙されないために～	数字を読む力(村上)
6	オンデマンド	村上	今どきのIT①	AIの活用について～その他最近のデジタル活用(村上)
7	オンデマンド	村上	今どきのIT②	SNS, 情報マナー, セキュリティ等について(村上)
8	オンデマンド	村上	情報収集と整理力	アナログとデジタルでの収集, フレームワーク(村上)
9	オンデマンド	村上	思考力	思考法の種類と実践(村上)
10	オンデマンド	江川	統計学①	医療統計の基礎(江川)
11	オンデマンド	江川	統計学②	情報の整理: データの種類(江川)
12	オンデマンド	江川	統計学③	グラフの活用: 分布を調べる(江川)
13	オンデマンド	江川	統計学④	記述統計: 特徴をを明らかにする(江川)
14	オンデマンド	江川	統計学⑤	推測統計: 予測する(江川)
15	オンデマンド	江川	統計学⑥	検定と推定: データをよりよく理解する(江川)

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	バイオメカニクス										
担当者氏名	帯刀 隆之										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標 (GIO)》

理学療法の基礎のため、現象としての身体運動をバイオメカニクスの観点から考察できるようにする。

（解剖学・生理学・運動学等の基礎医学的知識と関連させ、健康な人の心身の仕組みの説明に適應できるようにする）

《テキスト》

中村隆一他：『基礎運動学 第7版』。医歯薬出版。2025。
平田幸男訳：『解剖学アトラス』第10版。文光堂。2012。

《参考図書》

P.D.Andrew他訳：『筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版』。医歯薬出版。2018。

《行動目標 (SBOs)》

1. てこの原理と生体への適用を説明できる
2. 力の作用のベクトル表現、運動現象のグラフ表現、姿勢の記述 ができる
3. 身体重心の位置、求め方 を説明できる
4. 床反力と圧中心、関節モーメント の作用を姿勢や動作を見て言える
5. 立ち上がり動作を説明できる

《学生の留意点》

ごく初歩的な物理が基盤となります。
理解にとまどうときは、即、疑問を質問してください。クラスメート同士でも教え合いながら、学習を継続するようにしてください。各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する
（＊期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《成績評価の方法》

期末試験（筆記）60%。授業毎の課題 40%

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	帯刀	バイオメカニクスとは	コースオリエンテーション〔運動の観測・観察、力のベクトル表現_1〕
2	講義教室	〃	導入（用語）	骨と関節の運動、基本運動方向表現、運動の面と軸
3	実技教室	〃	姿勢の記述（観察）_1	基本運動方向表現の適用と応用（四肢六大関節、名称変化の一部を含む）
4	実技教室	〃	姿勢の記述（観察）_2	基本運動方向表現、姿勢・肢位・構え
5	講義教室	〃	運動を表わす	運動現象のグラフ表現とその理解
6	講義教室	〃	てこの原理_1	てこの原理、単関節における力の作用を考える、つり合いの式
7	講義教室	〃	てこの原理_2	てこの生体への応用、力のベクトル表現（ベクトルの合成と分解）
8	実技教室	〃	身体重心_1	身体重心をてこの原理から求める、重心の位置と変位
9	実技教室	〃	身体重心_2	身体重心の安定性
10	講義教室	〃	力の作用_1	作用と反作用、重力と抗力、床反力
11	講義教室	〃	力の作用_2	床反力と圧中心の理解、ベクトル表現
12	講義教室	〃	関節モーメント_1	モーメントとは回転力、身体運動は回転運動
13	講義教室	〃	関節モーメント_2	姿勢保持時の関節モーメント
14	実技教室	〃	立ち上がり動作_1	動作観察と分析〔身体重心の変位・動作の相分け・関節運動〕
15	講義教室	〃	立ち上がり動作_2	関節モーメント、身体重心の位置・変位

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	医療コミュニケーション論Ⅰ										
担当者氏名	佐々木 亮平、福田 崇										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										○
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										○
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

ビジネス社会の基本ルールを学んだ上で、リハビリテーション専門職としてのコミュニケーション技法を身につける。

《テキスト》

資料を配布する

《参考図書》

石川ひろの：『保健医療専門職のためのヘルスコミュニケーション学入門』、大修館書店、2020。

《行動目標(SBOs)》

1. ビジネス社会の基本ルールを説明できる。
2. 医療者として傾聴による問題解決の提案ができる。
3. 医療者として傾聴による共感的理解ができる。
4. 見学実習に向けた医療コミュニケーションが実演できる。

《学生の留意点》

医療人としてのマナーや、外部施設とのかかわりを持つうえでの留意点を学んでいきます。社会医学技術学院の学生としての自覚を持ち、適切な立ち振る舞いが実践できるような意識で臨んでください。各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施しない

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かした内容になっている。

《成績評価の方法》

ミニッツペーパー40%+実技課題60%の100%で評価する。
合計が60%未満の場合には実技課題による再試験対応となる。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	福田	オリエンテーション コミュニケーションスキル	コミュニケーションと医療コミュニケーション
2	講義教室	福田	コミュニケーションスキル②	場面に合わせた自己紹介
3	講義教室	福田	コミュニケーションスキル③	社会人としてのコミュニケーションスキル（非対人）
4	講義教室	福田	コミュニケーションスキル④	ヘルスコミュニケーション
5	講義教室	佐々木	コミュニケーションスキル⑤	傾聴：話を聞けるか？
6	講義教室	佐々木	コミュニケーションスキル⑥	傾聴：問題を解決する提案ができるか？
7	講義教室	佐々木	コミュニケーションスキル⑦	医療コミュニケーション技法
8	実技教室	佐々木	コミュニケーションスキル⑧	医療コミュニケーション技法
9	講義教室	佐々木/ 福田	実技ブレ試験演習	実技ブレ試験演習
10	実技教室	佐々木/ 福田	実技ブレ試験演習	実技ブレ試験演習
11	実技教室	佐々木/ 福田	1、2年合同授業	ロールプレイ
12	実技教室	佐々木/ 福田	1、2年合同授業	ロールプレイ
13	実技教室	佐々木/ 福田	1、2年合同授業	ロールプレイ
14	実技教室	佐々木/ 福田	1、2年合同授業	ロールプレイ
15	実技教室	佐々木/ 福田	最終確認演習	実技演習

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	生命倫理学										
担当者氏名	小林 規彦										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		DP1 人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
		DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
		DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
		DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標(GIO)》

プロフェッショナルの基礎としての人間性を涵養するために、生命倫理的課題を多角的に検討し、生命の尊厳について深く考察できる。

《テキスト》

指定なし

《参考図書》

必要に応じて提示する

《行動目標(SBOs)》

生命倫理を健康・病気・医療から、現代の臨床現場における倫理課題までを多角的(科学的エビデンス、ナラティブなど)な視点で考え、自らの言葉で発表し、討論できる。

《学生の留意点》

毎回講義だけでなくグループワークが取り入れられています。学生同士の積極的な意見交換、討論が望まれます。各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における実務経験を、医療倫理・生命倫理という観点から授業内容に活かした科目としている。

《成績評価の方法》

期末筆記試験60点

リアクションペーパー40点

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	小林	オリエンテーション	倫理とはなにか
2	講義教室	小林	情報倫理	事例検討
3	講義教室	小林	環境倫理	事例検討
4	講義教室	小林	研究倫理-1	事例検討
5	講義教室	小林	研究倫理-2	映像資料検討
6	講義教室	小林	保健医療制度	保険料、各種サービス、リハビリテーション診療報酬
7	講義教室	小林	混合診療	事例検討
8	講義教室	小林	障害者雇用・生活保護	障害等級による違い、生活保護給付
9	講義教室	小林	高齢者・認知症	患者、家族、医療従事者との信念対立
10	講義教室	小林	患者・医療従事者関係	インフォームドコンセント、悪い知らせをどう伝えるのか
11	講義教室	小林	終末期延命治療	映像資料検討
12	講義教室	小林	移植医療-1	生体臓器移植
13	講義教室	小林	移植医療-2	脳死臓器移植
14	講義教室	外来講師	トピックス-1	医師の立場から見た医学教育における生命倫理学の現状と課題-1
15	講義教室	外来講師	トピックス-2	医師の立場から見た医学教育における生命倫理学の現状と課題-2

科目名	現代社会と社会保障										
担当者氏名	渋谷 智明										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

社会保障制度を構成する公的扶助、福祉、社会保険制度などの政策理念、機能など具体的施策の内容を理解するために、現代社会の少子高齢化や財政的課題について、英国など先進諸国制度とも比較・検証し、安定的な制度設計を考察する。

《テキスト》

原野美智子・田中耕太郎：『はじめての社会保障～福祉を学ぶ人へ』、有斐閣アルマ、2026年（第23版）

《参考図書》

必要に応じて提示する。

《行動目標(SBOs)》

- 1) 社会保障制度の柱である介護・医療保険・年金・雇用保険などの保険制度の枠組みを説明できる。
- 2) 公的扶助、児童福祉、障害福祉の制度設計の基礎になっている財政（税）と社会保険制度（保険料プラス税）の基盤的相連、現状を説明できる。
- 3) 地域包括ケアシステムを理解し、医療と介護の連携、直面している課題・問題を説明できる。

《学生の留意点》

テーマ内容について、テキスト、参考書及び関連資料・文献等を基に事前学習をする調査・分析作業を導入します。各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施しない

（*期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

提出課題 100%

最終講義で課すレポートを中心に評価、1～14回の課題も評価の対象とします。

《実務経験のある教員による科目》

本科目は、社会保障制度に熟知した講師が担当し、その実務経験を生かした講義内容としている。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	渋谷	ガイダンスー社会保障制度とは	欧米の現行社会保障制度の現状の中で、日本の社会保障制度の位置づけと、提供するサービスがどのように機能し、またどのような課題を抱えているのかを概説する。
2	講義教室	渋谷	社会保障の概念整理	サービスの形態と社会のセーフティネットとしての社会保障の役割、日本国憲法、基本的人権に基づく扶助、社会福祉と社会保険の理論と定義の概念整理。
3	講義教室	渋谷	社会保障の歴史	エリザベス1世の救貧論から産業革命を経てドイツの社会保険論へ、日本の社会保障における慈善、社会事業家論からナショナルミニマム、戦後の国民皆保険論まで。
4	講義教室	渋谷	社会福祉①扶助	扶助（生活保護）、児童、母子、高齢者福祉。
5	講義教室	渋谷	社会福祉②障害福祉	障害者総合支援制度と障害程度区分の導入、3障害の一体的支援。
6	講義教室	渋谷	社会福祉③障害福祉	在宅、施設サービスの多様化と自立支援。措置制度による提供サービスから契約制度への移行と就労支援。
7	講義教室	渋谷	公的医療保険制度①制度の概要	国民健康保険制度と被用者保険制度、保険者と被保険者の概念整理。償還払い制度と診療報酬、給付と自己負担。
8	講義教室	渋谷	公的医療保険制度②保険給付	保険適用の医療保険給付サービスと、保険外自由診療、混合診療。
9	講義教室	渋谷	公的医療保険制度③医療提供体制	診療所と病院の機能分化と体系化。
10	講義教室	渋谷	公的医療保険制度と公的介護保険制度の連携	カルテ開示、インフォームドコンセント、セカンドオピニオン。訪問看護・リハビリ医療と介護の連携、地域包括ケア。
11	講義教室	渋谷	公的介護保険制度①制度概要	保険者と被保険者の保険料。要介護認定制度。財政基盤の課題。
12	講義教室	渋谷	公的介護保険制度②保険給付	施設・在宅、地域密着型介護保険給付サービスと、要支援者の総合支援。提供体制・事業者。
13	講義教室	渋谷	公的年金制度①制度概要	保険者と被保険者。国民年金、厚生年金の仕組み。基礎年金の保険料と公費拠出。強制加入と猶予・免除制度。
14	講義教室	渋谷	公的年金制度②老齢年金	老齢年金の支給開始と繰り上げ・繰り下げ支給、障害年金、遺族年金。給付と負担のバランスと賦課方式の課題。
15	講義教室	渋谷	雇用保険、労働災害者保険とまとめ	派遣、非正規雇用と保険・補償。まとめとして、日本の社会保障制度の制度改革論争の検証。社会保障の安定的かつ持続的運営システムに関する提言と今後の展望。以上。

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	解剖学Ⅰa										
担当者氏名	川上 連人										
授業方法	講義・演習	単位数	3	回数	30	時間数	60	開講年次	1	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		DP1 人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
		DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
		DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
		DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標(GIO)》
人体の正常な形態とその形成過程及び機能的意義について理解を深めるために、骨学、関節韌帯学、筋学について学ぶ。

《テキスト》
平田幸男訳：『解剖学アトラス』第10版、文光堂、2012年。

《参考図書》
渡辺正仁 監：『PT・OT・STのための解剖学』、廣川書店、2013年。
横地千保：『カラーアトラス 人体―解剖と機能』、医学書院、2013年。

《行動目標(SBOs)》
1. 全身の骨の種類と構造、発生と成長について説明できる。
2. 全身の関節の構造と種類について説明できる。
3. 筋の分類と作用、補助装置、上肢の筋について説明できる。

《学生の留意点》
骨格標本をはじめとする人体標本に対して礼を失うことのないよう真摯な態度で接すること、各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》
実施する

期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。

《実務経験のある教員による科目》
解剖学教室の外來講師による講義形式で実施する。

《成績評価の方法》
中間試験および期末試験を実施し、それぞれ50%。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	川上	解剖学総論	解剖学の概要、解剖学用語
2	講義教室	川上	"	解剖学の概要、解剖学用語
3	講義教室	川上	骨学総論	骨の種類と構造、骨の発生と成長
4	講義教室	川上	"	骨の種類と構造、骨の発生と成長
5	講義教室	川上	骨学各論	体幹の骨格（脊柱）
6	講義教室	川上	"	体幹の骨格（脊柱）
7	講義教室	川上	"	体幹の骨格（胸郭）
8	講義教室	川上	"	体幹の骨格（胸郭）
9	講義教室	川上	"	上肢の骨格
10	講義教室	川上	"	上肢の骨格
11	講義教室	川上	"	下肢の骨格
12	講義教室	川上	"	下肢の骨格
13	講義教室	川上	"	頭蓋の骨格
14	講義教室	川上	"	頭蓋の骨格
15	講義教室	川上	"	復習
16	講義教室	川上	"	復習
17	講義教室	川上	関節韌帯学総論	関節の一般構造と種類
18	講義教室	川上	"	関節の一般構造と種類
19	講義教室	川上	関節韌帯学各論	体幹、上肢の関節
20	講義教室	川上	"	体幹、上肢の関節
21	講義教室	川上	"	下肢の関節
22	講義教室	川上	"	下肢の関節
23	講義教室	川上	筋学総論	筋の分類と作用、筋の補助装置
24	講義教室	川上	"	筋の分類と作用、筋の補助装置
25	講義教室	川上	筋学各論	頭頸部の筋
26	講義教室	川上	"	頭頸部の筋
27	講義教室	川上	"	上肢帯の筋
28	講義教室	川上	"	上肢帯の筋
29	講義教室	川上	"	上肢の筋
30	講義教室	川上	"	上肢の筋

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	解剖学Ⅰb										
担当者氏名	川上 達人										
授業方法	講義・演習	単位数	3	回数	30	時間数	60	開講年次	1	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

人体の正常な形態とその形成過程及び機能的意義について理解を深めるために、筋学、内臓学について学ぶ。

《テキスト》

平田幸男訳：『解剖学アトラス』第10版、文光堂、2012年。

《参考図書》

渡辺正仁 監：『PT・OT・STのための解剖学』、廣川書店、2013年。
〔準教科書扱い〕

横地千保：『カラーアトラス 人体－解剖と機能』、医学書院、2013年。

《行動目標(SBOs)》

1. 体幹、下肢の筋について説明できる。
2. 内臓全般（消化器、循環器、呼吸器、泌尿器、生殖器、感覚器）の構造と配置について説明できる。

《学生の留意点》

骨格標本をはじめとする人体標本に対して礼を失うことのないよう真摯な態度で接すること。各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。

《実務経験のある教員による科目》

解剖学教室の外來講師による講義形式で実施する。

《成績評価の方法》

中間試験および期末試験を実施し、それぞれ50%。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	川上	筋学各論	体幹筋、下肢帯の筋
2	講義教室	川上	"	体幹筋、下肢帯の筋
3	講義教室	川上	"	下肢の筋
4	講義教室	川上	"	下肢の筋
5	講義教室	川上	"	復習
6	講義教室	川上	"	復習
7	講義教室	川上	内臓学総論	内臓の一般的構造と体内における配置
8	講義教室	川上	"	内臓の一般的構造と体内における配置
9	講義教室	川上	内臓学各論	消化器系
10	講義教室	川上	"	消化器系
11	講義教室	川上	"	消化器付属腺
12	講義教室	川上	"	消化器付属腺
13	講義教室	川上	"	循環器系（心臓と血管）
14	講義教室	川上	"	循環器系（心臓と血管）
15	講義教室	川上	"	循環器系（リンパ系）
16	講義教室	川上	"	循環器系（リンパ系）
17	講義教室	川上	"	呼吸器系
18	講義教室	川上	"	呼吸器系
19	講義教室	川上	"	内分泌系
20	講義教室	川上	"	内分泌系
21	講義教室	川上	"	感覚器系（視覚）
22	講義教室	川上	"	感覚器系（視覚）
23	講義教室	川上	"	感覚器系（聴覚）
24	講義教室	川上	"	感覚器系（聴覚）
25	講義教室	川上	"	感覚器系（皮膚、味覚、嗅覚）
26	講義教室	川上	"	感覚器系（皮膚、味覚、嗅覚）
27	講義教室	川上	"	泌尿器系、男性生殖器
28	講義教室	川上	"	泌尿器系、男性生殖器
29	講義教室	川上	"	女性生殖器、発生学
30	講義教室	川上	"	女性生殖器、発生学

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	解剖学Ⅱa										
担当者氏名	高見 茂										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		DP1 人を一個人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
		DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
		DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
		DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標(GIO)》

人体の正常な形態とその形成過程及び機能的意義について理解を深めるために、神経系について学ぶ。

《テキスト》

野村巖：『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学、第6版』, 医学書院, 2024年。

《参考図書》

W. Platzer, 他著、平田幸男訳：『解剖学アトラス』第10版, 文光堂, 2012年。 井上貴央 監訳：『カラー人体解剖学―構造と機能：ミクロから マクロまで』, 西村書店, 2003年。 P. W. Tank, T. R. Gest 著、佐藤達夫訳：『あたらしい解剖学アトラス』, MEDSi, 2009年。

《行動目標(SBOs)》

1. 神経系についての解剖学用語を説明できる。
2. 末梢神経系の基本構造と名称を、機能と関連付けて説明できる。
3. 中枢神経系の基本構造と部位名を機能と関連付けて説明できる。
4. 主な神経路について、その線維連絡と機能の概要を説明できる。
5. 神経系の断層解剖の概略を説明できる。
6. 神経系の表層解剖の概要を説明できる。

《学生の留意点》

学名（和名）を正確に書けること。脳などの三次元（立体）的構造を把握すること。各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

（＊期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

中間試験および期末試験を実施し、それぞれ50%。

《実務経験のある教員による科目》

解剖学教室の外來講師による講義形式で実施する。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	高見	神経系概論	神経系の区分, 神経系の構成と組織学, 髄膜と脳室系, 神経系の発生
2	講義教室	高見	中枢神経系 (1)	脊髄: 外形と断面, 脳幹: 延髄, 橋
3	講義教室	高見	中枢神経系 (2)	中脳, 網様体, 小脳: 外形と区分, 小脳脚, 内部構造, 大脳: 間脳視床
4	講義教室	高見	中枢神経系 (3)	視床下部, 終脳 (大脳半球): 新皮質
5	講義教室	高見	中枢神経系 (4), 神経路 (1)	島, 辺縁葉 (海馬体, 扁桃体, 嗅球など), 大脳基底核, 神経路: 上行性神経路
6	講義教室	高見	神経路 (2), 末梢神経系 (1)	下行性神経路, 脊髄と脊髄神経, 神経叢概論, 交感・副交感神経概論
7	講義教室	高見	末梢神経系 (2)	頸神経, 頸神経叢, 腕神経叢
8	講義教室	高見	末梢神経系 (3)	胸神経, 腰神経, 腰神経叢, 仙骨神経, 仙骨神経叢
9	講義教室	高見	末梢神経系 (4)	陰部神経, 尾骨神経叢, 脳神経: 嗅神, 視神経, 動眼神経, 滑車神経
10	講義教室	高見	末梢神経系 (5)	脳神経: 三叉神経, 外転神経, 顔面神経, 内耳神経
11	講義教室	高見	末梢神経系 (6)	脳神経: 舌咽神経, 迷走神経, 副神経, 舌下神経, 自律神経の構造
12	講義教室	高見	機能神経解剖学 (1)	扁桃体, 報酬系, 海馬体と記憶
13	講義教室	高見	機能神経解剖学 (2)	小脳と大脳新皮質, 脳のコリン, ノルアドレナリン, セロトニン作動系
14	講義教室	高見	神経系の表層・解剖断層	体表解剖と末梢神経の触察法, 神経系の断層解剖学
15	講義教室	高見	まとめ	紡錘状回, 帯状回, 関連する国試の過去問題, まとめ

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	解剖学Ⅱb										
担当者氏名	高見 茂										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		DP1	人を一個人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人								
		DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人								○
		DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人								
		DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人								

《一般教育目標(GIO)》

人体の正常な形態とその形成過程及び機能的意義について理解を深めるために、脈管系について学ぶ。

《テキスト》

野村 巖 編著：『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学、第6版』、医学書院、2024年。

《参考図書》

・W. Platzer 他 著、平田幸男 訳：『解剖学アトラス』第10版、文光堂、2012年。
井上貴央 監訳：『カラー人体解剖学—構造と機能：ミクロからマクロまで』、西村書店、2003年
P. W. Tank, T. R. Gest 著、佐藤達夫 訳：『あたらしい解剖学アトラス』、MEDSI、2009年。

《行動目標(SBOs)》

1. 脈管系についての解剖学用語を説明できる。
2. 心臓の基本構造と機能の概要について説明できる。
3. 全身の主な脈管の名称と走行の概要を説明できる。
4. 脈管と神経の局所解剖の概要について説明できる。
5. 脈管系の断層・表層解剖の概要について説明できる。

《学生の留意点》

学名（和名）を正確に書けること。動脈、静脈、リンパ系の分布について、三次元（立体）的に把握すること。各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

《実務経験のある教員による科目》

解剖学教室の外來講師による講義形式で実施する。

（※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

中間試験および期末試験を実施し、それぞれ50%。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	高見	脈管系概論	血液循環とリンパ循環、心臓の発生と胎生期の血液循環、脈管系の組織学
2	講義教室	高見	心臓(1)	外形、内部構造、刺激伝導系、冠循環、心臓の神経支配
3	講義教室	高見	動脈系(1)	大動脈、頭部、頸部、肩部および上肢の動脈
4	講義教室	高見	動脈系(2)	胸腹部、腰部、骨盤、大腿、下腿の動脈
5	講義教室	高見	静脈系(1)	静脈の特徴、皮静脈と深静脈、全身の静脈系、硬膜静脈洞
6	講義教室	高見	静脈系(2)、特徴的な血管系(1)	脳の静脈、奇静脈系、肝門脈系、下垂体門脈系、肝臓と腎臓の血管系、脳内部への動脈
7	講義教室	高見	特徴的な血管系(2)	子宮の血管系と子宮内膜の変化と血管系、臍の血管系、精巣、陰茎の血管系と血液調節
8	講義教室	高見	リンパ系(1)	概論、構成細胞、リンパ管、リンパ節の分布とその他のリンパ系器官
9	講義教室	高見	リンパ系(2)局所解剖学(1)	リンパ系(2)、局所解剖学(1) 臓、胸腺、粘液関連リンパ組織：リンパ小節、扁桃、パイエル板、頭頸部の血管分布
10	講義教室	高見	局所解剖学からみた血管(2)	顎下三角、下動脈三角、外側頸三角部、頸動脈三角、胸鎖乳突筋部、鎖骨胸筋三角
11	講義教室	高見	局所解剖学からみた血管(3)	腋窩部、腋窩隙、上腕・前腕・手
12	講義教室	高見	局所解剖学からみた血管(4)	体幹、大腿の血管系と他の構造との関連
13	講義教室	高見	局所解剖学からみた血管(5)	下腿、足の血管系と他の構造との関連、体表解剖と血管の触察法
14	講義教室	高見	脈管系の断面・断層解剖	上肢、頭頸部、胸部の断層解剖学
15	講義教室	高見	理学療法との関連事項	腹部および下肢の断層解剖学、まとめ

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	生理学 I a										
担当者氏名	渡辺 圭一										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標 (GIO)》

正常な生体機能がどのような機序で発現し、維持されているかについて理解を深めるため、「膜電位の発生機序」、「神経細胞の働き」、「体内での情報伝達機能」、「身体を動かす際の中枢神経の働き（生理）及び末梢神経と効果器（筋）の働き」について学ぶ。また、基本的なリハビリテーション医学の解釈に必要な基礎的知識を修得する。

《テキスト》

大地 陸男：『生理学テキスト 第9版』。文光堂、2022年。

《参考図書》

適宜紹介。

《行動目標 (SBOs)》

1. 神経筋機能について電気特性と物質特性から説明できる。
2. 筋の機能について電気特性と物質特性から説明できる。
3. 身体を動かす際の中枢神経の働き（生理）について説明できる。
4. 身体を動かす際の末梢神経と効果器（筋）の働き（生理）について関係づけることができる。

《学生の留意点》

授業時間のみでは理解は深まりません。自分に適した自己学習方法を見つけ、積極的に予習・復習を行う習慣を身につけましょう。生理学は解剖学とならんで医療従事者にとって必須の科目であり、臨床医学を学ぶ上での土台となります。また国家試験でも幅広く深い知識が問われます。そのことを意識して授業に臨んで下さい。各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

（※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

筆記試験70％、小テスト20％、レポート10％

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における臨床検査技師としての実務経験を活かした科目としている。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	渡辺	概論	生理学概論、神経生理学概論
2	講義教室	渡辺	細胞機能の基礎	細胞の環境、構造・構造・機能調節
3	講義教室	渡辺	細胞機能の基礎②	細胞膜を通過する物質移動
4	講義教室	渡辺	細胞機能の基礎③	細胞膜を通過する物質移動
5	講義教室	渡辺	活動電位、イオンチャネル	膜電位、興奮発生と膜電流、イオンチャネルの機能と構造
6	講義教室	渡辺	神経の基本・興奮伝導について	神経線維の構造、跳躍伝導、興奮伝導の特徴（興奮伝導の3原則）、神経線維の種類
7	講義教室	渡辺	骨格筋について	筋の基本的機能、筋節（サルコメア）、筋フィラメント（アクチン、ミオシンについて）調節タンパク質（トロポニン、トロポミオシンについて）
8	講義教室	渡辺	骨格筋について（その2）	筋小胞体とT管（横小管）、Ca ²⁺ による筋収縮の開始（筋の収縮）、等尺性収縮と等張性収縮、筋収縮の基本の型、神経支配比、筋収縮のエネルギー
9	講義教室	渡辺	興奮の伝達と抑制	興奮の伝達と抑制、シナプスについて、神経筋伝達、神経筋接合部の伝達
10	講義教室	渡辺	自律神経系①	自律神経系との構成と作用、自律神経系の受容体①
11	講義教室	渡辺	自律神経系②	自律神経系の受容体②
12	講義教室	渡辺	運動系①	脊髄について、脳幹について
13	講義教室	渡辺	運動系②	小脳について、大脳基底核について①
14	講義教室	渡辺	運動系③	大脳基底核について②
15	講義教室	渡辺	運動系④	運動系①～③までまとめ

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	生理学 I b										
担当者氏名	渡辺 圭一										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		DP1 人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
		DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
		DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
		DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標(GIO)》

正常な生体機能がどのような機序で発現し、維持されているかについて理解を深めるために「感覚機能および脳の統合機能が関与する生命機能」について学ぶ。また、基本的なリハビリテーション医学の解釈に必要な基礎的知識を修得する。

《テキスト》

大地 陸男：『生理学テキスト 第9版』。文光堂。2022年。

《参考図書》

適宜紹介。

《行動目標(SBOs)》

1. 感覚機能の点からヒトの生命機能を説明できる。
2. 脳の統合機能の点から人の生命機能を説明できる。

《学生の留意点》

授業時間のみでは理解は深まりません。自分に適した自己学習方法を見つけ、積極的に予習・復習を行う習慣を身につけましょう。生理学は解剖学とならんで医療従事者にとって必須の科目であり、臨床医学を学ぶ上での土台となります。また国家試験でも幅広く深い知識が問われます。そのことを意識して授業に臨んで下さい。各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《成績評価の方法》

筆記試験70%、小テスト20%、課題10%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における臨床検査技師としての実務経験を活かした科目としている。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	渡辺	運動系⑤	大脳皮質について
2	講義教室	渡辺	感覚生理学総論・体性感覚①	感覚系神経システムの理解
3	講義教室	渡辺	体性感覚②	感覚の強度、体性感覚と受容器、体性感覚の伝導路・中継核①
4	講義教室	渡辺	味覚、嗅覚	体性感覚の伝導路・中継核②、大脳皮質の体性感覚野、痛覚、痒み
5	講義教室	渡辺	聴覚	味覚、(味覚系、満腹、摂食中枢、嚥下)嗅覚
6	講義教室	渡辺	前庭感覚	音の性質と聴力、伝音機構、内耳の音受容、聴覚の中枢
7	講義教室	渡辺	視覚①	前庭器官の構造と機能、前庭系の神経回路
8	講義教室	渡辺	視覚②	眼球の光学系、網膜の光受容、視覚の中枢神経機序
9	講義教室	渡辺	感覚器	感覚としての視覚、眼球運動、演習
10	講義教室	渡辺	脳の統合機能①	感覚器(1～8回)のまとめ
11	講義教室	渡辺	脳の統合機能②	大脳皮質の構造と機能
12	講義教室	渡辺	脳の統合機能③	大脳辺縁系と視床下部
13	講義教室	渡辺	脳の統合機能④	脳の情動、行動を調節する伝達物質、脳波、演習(脳波について)、覚醒と睡眠
14	講義教室	渡辺	脳の統合機能⑤	学習と記憶
15	講義教室	渡辺	脳の統合機能⑥	脳の統合機能(10～14回)のまとめ

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	生理学Ⅱa										
担当者氏名	武市 敏明										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標 (GIO)》

生理学は臨床医学各分野の基幹となる学問領域である。
生理学は人体の正常な恒常性の機序及び機能的意義について理解を深めるために、人体の各種臓器の機能、役割について学び、合目的性として生体恒常性の機序を理解するもので、臨床医学への出発点となるものである。

《テキスト》

大地 陸男：『生理学テキスト 第9版』．文光堂．2022年．
中島雅美：『理学療法士・作業療法士PT・OT基礎から学ぶ 生理学ノート 第3版』．2017年．

《参考図書》

適宜紹介

《行動目標 (SBOs)》

1. 体液、血液の役割と機序を説明できる。
2. 心臓、血管の循環系の役割と機序を説明できる。
3. 生体防御機構免疫系の役割と機序を説明できる。
4. 呼吸・酸塩基平衡の役割と機序を説明できる。
5. 体温調節と生体リズムの役割と機序を説明できる。

《学生の留意点》

今話題の最新医学や健康情報について、生理学的知識で精査してみましょう。臨床医学と生理学をより身近なものとして理解を深めることができます。各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

《実務経験のある教員による科目》

（＊期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

筆記試験70％，小テスト20％，レポート10％

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	武市	体液	生命現象の本態、ホメオスタシス、体液の役割、体液の組成、ミネラルの働き
2	講義教室	武市	体液	水分の生理機能、体液量の調節、脱水、浮腫、カルシウムの吸収と代謝
3	講義教室	武市	血液	血液の成分と機能、血液の物理化学的特性、血液の成分、造血と造血因子
4	講義教室	武市	血液	赤血球の形状と機能、赤血球の新生と破壊、ヘモグロビンの働き、貧血
5	講義教室	武市	血液	白血球、血小板、血漿の形状と機能、血液凝固作用、血小板血栓、二次血液凝固
6	講義教室	武市	血液	ABO式血液型、RH式血液型、赤血球の凝集反応、凝集原（抗原）凝集素（抗体）
7	講義教室	武市	免疫	非特異的防御機構、特異的防御機構、免疫機構、リンパの働き、アレルギー
8	講義教室	武市	循環	体循環、肺循環、心臓の構造と機能、心筋の特性、刺激伝導系
9	講義教室	武市	心臓	心周期、心音、心拍数の調節、心臓の神経支配、心筋の電気現象と心電図
10	講義教室	武市	血管	動脈・静脈・毛細血管の特徴、血管の自律神経、冠循環、脳循環、腹腔内循環
11	講義教室	武市	血管	血圧の調節要因、局所性調節、ホルモン調節、リンパ管の構造と機能
12	講義教室	武市	呼吸	換気の仕組み、気道、肺の構造と機能、呼吸筋と呼吸運動、肺胞換気量
13	講義教室	武市	呼吸	肺におけるガス交換、酸素・二酸化炭素の運搬、呼吸による体液の酸塩基平衡
14	講義教室	武市	呼吸	呼吸に影響を与える因子、呼吸調節作用、呼吸中枢、特殊環境の呼吸への影響
15	講義教室	武市	体温	体温の調節、体熱の産生、基礎代謝量、体熱の放散、体温調節中枢、日内変動

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	生理学Ⅱb										
担当者氏名	武市 敏明										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
		DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
		DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
		DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標 (GIO)》

生理学は臨床医学各分野の基幹となる学問領域である。
生理学は人体の正常な恒常性の機序及び機能的意義について理解を深めるために、人体の各種臓器の機能、役割について学び、合目的性として生体恒常性の機序を理解するもので、臨床医学への出発点となるものである。

《テキスト》

大地 陸男：『生理学テキスト 第9版』．文光堂．2022年．
中島雅美：『理学療法士・作業療法士PT・OT基礎から学ぶ 生理学ノート 第3版』．2017年．

《参考図書》

適宜紹介

《行動目標 (SBOs)》

1. 消化・吸収の役割と機序を説明できる。
2. 栄養とエネルギーの役割と機序を説明できる。
3. 泌尿器系の役割と機序を説明できる。
4. 内分泌系の役割と機序を説明できる。
5. 生殖器系の役割と機序を説明できる。
6. 成長と老化の生理作用とその機序を説明できる。

《学生の留意点》

今話題の最新医学や健康情報について、生理学的知識で精査してみましょう。臨床医学と生理学をより身近なものとして理解を深めることができます。各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

《実務経験のある教員による科目》

（＊期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

筆記試験70％，小テスト20％， レポート10％

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	武市	復習	前期講義内容の再確認
2	講義教室	武市	消化	口腔内消化、咀嚼・嚥下、唾液による消化、胃内消化、消化液分泌調節作用
3	講義教室	武市	消化	小腸の構造と機能、小腸壁の構造、小腸の運動、小腸における消化
4	講義教室	武市	吸収	栄養素の分解と吸収、肝臓の構造と機能、膵臓の構造と機能、胆嚢・胆道の機能
5	講義教室	武市	排便	大腸の構造と機能、大腸の運動、胃大腸反射、排便反射、肛門括約筋の機能
6	講義教室	武市	代謝	物質代謝、炭水化物代謝、脂肪代謝、タンパク代謝、核酸代謝、ビタミンの作用
7	講義教室	武市	腎臓	腎臓の構造と機能、ネフロン構造と機能、糸球体ろ過、尿細管の働き、再吸収
8	講義教室	武市	腎臓	腎機能の測定、腎血流量、腎血漿流量、糸球体ろ過量の計算、腎クリアランス
9	講義教室	武市	排尿	尿管、膀胱・尿道の構造と機能、膀胱と尿道の神経支配、排尿反射、蓄尿反射
10	講義教室	武市	内分泌	ホルモンの化学的性質、ホルモンの受容器、ホルモンの作用機序
11	講義教室	武市	内分泌	視床下部ホルモン、下垂体前葉ホルモンの働き、下垂体後葉ホルモンの働き
12	講義教室	武市	内分泌	甲状腺ホルモン、副甲状腺ホルモン、膵臓ホルモン、副腎皮質・髄質ホルモン
13	講義教室	武市	生殖	排卵・月経、妊娠のホルモン、精巣の構造機能
14	講義教室	武市	老化	細胞の寿命と再生、身体機能の加齢変化、脳死判定、生理的老化の特徴
15	講義教室	武市	復習	後期講義内容の再確認

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	人間発達学										
担当者氏名	山中 陽子										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
		DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
		DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
		DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標(GIO)》

対象者の発達過程を考慮しながら対応できるようになるために、人の生得的な能力を知り、また代表的な各領域の発達段階における特徴を学ぶ。
(※「各領域」とは、運動機能、認知機能、心理・社会性機能等を示す)

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

授業の中でその都度紹介します。

《行動目標(SBOs)》

1. 人の発達段階の特徴について各領域に分けて説明できる。
2. 発達の遅れ、検査について説明できる。
3. 各ライフステージにおける発達の特徴について説明できる。

《学生の留意点》

テキストは用いません。基本的に毎回プリントを配布いたします。
講義のほか、授業内で数回の心理検査を実施する予定です。各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における実務経験を、医療倫理・生命倫理という観点から授業内容に活かした科目としている。

《成績評価の方法》

期末筆記試験80%、レポート20%。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	山中	ガイダンス	生涯発達という考え方 発達段階と発達課題
2	講義教室	山中	発達理論	さまざまな発達理論（ピアジェ・エリクソンなど）
3	講義教室	山中	胎 児 期	胎児の発達 子どもの行動発達
4	講義教室	山中	新 生 児 期	出生後からの発達（愛着を中心に） 子どもの言語発達
5	講義教室	山中	乳 幼 児 期	幼児期における心理的発達 愛着について
6	講義教室	山中	児 童 期 (1)	認知発達段階の把握 学習・記憶の発達
7	講義教室	山中	児 童 期 (2)	ギャング・エイジの理解 道徳的判断の発達
8	講義教室	山中	児童期（思春期）	身体の成長と心の成長（青年期への移行） 恋愛の発達
9	講義教室	山中	青 年 期	アイデンティティ（自我同一性）とモラトリアムの理解
10	講義教室	山中	成 人 期	成人期における発達 職業の選択 結婚と子育て
11	講義教室	山中	成人期（中年期）	中年期危機 次世代を育てる
12	講義教室	山中	老 年 期	エイジズム 老年期の発達変化 認知症
13	講義教室	山中	発達の遅れ (1)	発達障害とは
14	講義教室	山中	発達の遅れ (2)	発達検査の使い方、役立て方
15	講義教室	山中	ま と め	

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	運動学Ⅰ										
担当者氏名	小宮山 一樹										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標 (GIO)》

理学療法治療技術論への学習の基礎とするために、上肢・体幹の機能解剖及び、呼吸、循環、代謝の基本的知識を習得する。

《テキスト》

中村隆一他：『基礎運動学 第7版』。医歯薬出版。2012。
平田幸男訳：『解剖学アトラス』第10版。文光堂。2012

《参考図書》

嶋田智明他訳：『筋骨格系のキネシオロジー』。医歯薬出版。2012。
塩田悦二訳：『カバンジー機能解剖学Ⅱ』。医歯薬出版。2010。
勝田茂徳著：『入門運動生理学』。杏林書院。2015。

《行動目標 (SBOs)》

1. 関節構造や筋活動の特性を踏まえて身体運動が説明ができる。
2. 上肢・体幹の構造と運動が説明できる。
3. 体幹、肩関節、肘関節、手関節の運動学的特徴を説明できる。
4. 運動学としての呼吸・代謝の仕組みを説明できる。

《学生の留意点》

解剖、生理学に基づいた専門的内容が多くなる。解剖学各回の復習を欠かさず授業に臨むこと。教材室にある骨標本・筋模型を利用して、具体的に理解することにつとめること。毎回教材備品を授業開始までに準備すること必要に応じて自らの身体を実際に動かして積極的に学習すること。各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《成績評価の方法》

小テスト25%・筆記試験75%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を機能解剖の知識獲得のために活かした授業としている。

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	小宮山	オリエンテーション	運動学概要、運動学を学ぶ意味
2	講義教室	小宮山	骨学総論	関節の副運動、関節の形状による分類など
3	講義教室	小宮山	骨学総論	運動面と運動軸、運動方向表現など
4	講義教室	小宮山	筋学総論	筋収縮の様式、筋の滑走説など
5	講義教室	小宮山	筋学総論	張力-長さ曲線、テノデシスアクションなど
6	講義教室	小宮山	肩関節・肩甲帯の機能解剖	胸鎖関節、肩鎖関節、肩甲胸郭関節、第二肩関節について
7	講義教室	小宮山	肩関節・肩甲帯の機能解剖	肩関節・肩甲帯の筋と作用について
8	講義教室	小宮山	肘関節・前腕の機能解剖	腕尺関節、腕橈関節、上下橈尺関節について
9	講義教室	小宮山	肘関節・前腕の機能解剖	肘関節・前腕の筋と作用について
10	講義教室	小宮山	手関節・指の機能解剖	外来筋群と内在筋群、末梢神経麻痺、指背腱膜など
11	講義教室	小宮山	脊柱の機能解剖	脊柱の構造と各部位の運動学的特徴について
12	講義教室	小宮山	頸部の機能解剖	軸椎関節および環椎後頭関節の運動について、頸部の運動と筋活動について
13	講義教室	小宮山	胸腰部の機能解剖	姿勢と椎間板内圧について、胸椎、腰椎の関節運動
14	講義教室	小宮山	呼吸の運動学	胸式呼吸・腹式呼吸の運動学など

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	運動学Ⅱ										
担当者氏名	佐々木 亮平										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

理学療法評価や治療技術論への学習の基礎とするために、理学療法士に最低限必要な「下部体幹から足部までの運動学」と「正常歩行」、「運動学習」に関して仕組みを習得する。

《テキスト》

中村隆一他：『基礎運動学第7版』。医歯薬出版。2025年。
平田幸男訳：『解剖学アトラス』。文光堂。2012年。

《参考図書》

嶋田智明他訳：『筋骨格系のキネシオロジー』。医歯薬出版。2018年。
塩田悦二訳：『カバンジー機能解剖学Ⅱ下肢』。医歯薬出版。2019年。

《行動目標(SBOs)》

1. 骨盤の構造と運動を説明することができる。
2. 股・膝・足関節の構造と運動を説明することができる。
3. 各関節の安定化機構を説明することができる。
4. 正常歩行について説明することができる。
5. 運動学習について説明できる。

《学生の留意点》

基幹科目の一つです。予習・復習を十分にしながら確実に理解を進めてください。各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。毎回の授業冒頭に前回の内容について小テストを行います。復習をして臨むようにしてください。

《期末試験実施について》

実施する

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《成績評価の方法》

毎回の小テスト(30%)
期末試験筆記(70%)

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かし「理学療法評価や治療技術論への学習の基礎となるような運動学事項の理解」を目指す。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	佐々木	骨盤の構造と運動表現	コースオリエンテーション／骨盤の解剖学的理解と運動方向表現
2	講義教室	佐々木	骨盤と脊柱の関係	骨盤傾斜角、腰椎骨盤リズムについて
3	実技教室	佐々木	骨盤と股関節の関係	トーマステストについて
4	講義教室	佐々木	股関節の構造と機能_1	股関節の解剖学的理解と重要な角度
5	講義教室	佐々木	股関節の構造と機能_2	股関節の構造と機能／靭帯機構と筋作用
6	実技教室	佐々木	股関節の構造と機能_3	運動時の安定性について、トレンデレンベルグとデュシャンヌ跛行について
7	講義教室	佐々木	膝関節の構造と機能_1	膝関節の解剖学的理解と運動(滑りと転がり、終末強制回旋)
8	講義教室	佐々木	膝関節の構造と機能_2	膝関節の静的安定化機構
9	実技教室	佐々木	膝関節の構造と機能_3	膝関節の動的安定化機構
10	講義教室	佐々木	足関節・足部の構造と機能_1	足関節足部の解剖学的理解と運動表現
11	講義教室	佐々木	足関節・足部の構造と機能_2	足関節足部に特有な関節軸と複合された運動の理解
12	講義教室	佐々木	足関節・足部の構造と機能_3	足関節足部の筋解剖学／足アーチの機能
13	講義教室	佐々木	正常歩行_1	正常歩行 歩行メカニズム、歩行相
14	講義教室	佐々木	正常歩行_2	正常歩行 歩行相における役割
15	講義教室	佐々木	運動学習	運動学習について

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	リハビリテーション医学										
担当者氏名	前島 早代、森 逸平										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1	人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
	DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
	DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
	DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標(GIO)》

理学・作業療法に展開するために、リハビリテーション医学の概念と各障害に対する基本的原則を学ぶ。

《テキスト》

『Crosslink basic リハビリテーションテキスト リハビリテーション医学』 メジカルビュー社

《参考図書》

講義内で提示します。

《行動目標(SBOs)》

1. 各障害の生じる病態・疫学・予後を記述できる
2. 各障害の診断法・医学的治療を説明できる
3. 各障害に対する病期に応じたリハビリテーションを説明できる
4. 各障害の特徴を列挙できる

《学生の留意点》

正しい医学知識を身につけ、臨床での応用を常に念頭において勉強して欲しい。各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《成績評価の方法》

筆記試験 100%

《実務経験のある教員による科目》

本科目は医師が担当し、その実務経験を授業内容の講義にいかした授業としている。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	森	1章1-1～3、2章2-2	リハビリテーション医学・画像診断
2	講義教室	森	4章4、4章5、 4章6-2 6、4章6-2 7	義肢・装具・車椅子、住環境と福祉用具・自助具、上肢切断、下肢切断
3	講義教室	前島	4章6-6	廃用症候群のリハビリテーション
4	講義教室	前島	5章5、5章6	ロコモティブシンドローム、サルコペニア、フレイル
5	講義教室	森	4章6-3 (1)、 3章3-2	脳血管疾患、機能的帰結の予測
6	講義教室	森	4章6-1 4、4章6-2 1	失語症、高次脳機能障害
7	講義教室	前島	2章2-2、4章6-3 (5)、 4章6-4 (1)～(4)	電気生理的検査、末梢神経損傷、運動器リハビリテーション:下肢・体幹・上肢
8	講義教室	前島	4章6-2 5	脊髄損傷に対するリハビリテーション
9	講義教室	森	2章2-1、4章6-2	心電図、心大血管リハビリテーション
10	講義教室	森	2章2-2、4章6-5	呼吸機能検査、呼吸器リハビリテーション
11	講義教室	前島	4章6-3 (2)～(4)、 4章6-1 2	パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋ジストロフィー、難病患者リハビリテーション
12	講義教室	前島	4章6-1 1	障害児(者) リハビリテーション
13	講義教室	森	3章3-1、3章3-4、 4章6-1	I C U、リスク管理、医療安全と感染対策
14	講義教室	森	4章6-2 3	スポーツ復帰のリハビリテーション
15	講義教室	前島	4章6-8、4章6-9、 5章7	腎臓、糖尿病、生活習慣病対策

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	臨床心理学										
担当者氏名	杉村 夕										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

対象者の心理的特徴や心的作用を考慮しながら実際場面で対応できるようになるために、臨床心理学の基本的理論、心理検査法、心理療法などを学ぶ。

《テキスト》

特になし

《参考図書》

授業の中でその都度紹介します。

《行動目標(SBOs)》

1. 臨床心理学の定義と対象、基本的な考え方を説明できる。
2. 代表的な心理検査の種類を列挙し、その特徴と内容について説明できる。
3. 代表的な心理療法について列挙し、その特徴と内容について説明できる。

《学生の留意点》

実際にさまざまな心理検査を実施したり、さまざまな心理療法の基礎を体験してもらったりします。
積極的な授業参加を期待します。各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《成績評価の方法》

期末試験100 %

《実務経験のある教員による科目》

当科目は臨床心理士が担当し、その実務経験を活かした授業としている。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	杉村	臨床心理学の定義と対象、基礎理論	臨床心理学の定義と対象、基礎理論（学習、記憶、行動）
2	講義教室	杉村	心理アセスメント	面接法、行動観察法、心理検査法
3	講義教室	杉村	心理検査法①	性格検査（質問紙法）
4	講義教室	杉村	心理検査法②	性格検査（投影法）
5	講義教室	杉村	心理検査法③	性格検査（作業検査法）
6	講義教室	杉村	心理検査法④	知能検査（ウェクスラー式、ビネー式）
7	講義教室	杉村	心理療法①	概論
8	講義教室	杉村	心理療法②	精神分析療法、防衛機制と転移
9	講義教室	杉村	心理療法③	クライエント中心療法
10	講義教室	杉村	心理療法④	行動療法、認知行動療法
11	講義教室	杉村	心理療法⑤	自律訓練法
12	講義教室	杉村	心理療法⑥	その他の心理療法
13	講義教室	杉村	ライフサイクルと心理的問題	ライフサイクルと心理的問題、障害者・高齢者の心理、障害の受容、その他
14	講義教室	杉村	ストレスマネジメント	ストレスマネジメント
15	講義教室	杉村	まとめ	まとめ

《専門基礎分野 保健医療福祉とリハビリテーションの理念》

科目名	リハビリテーション概論										
担当者氏名	藤川 明代 浅沼 辰志、山田 千鶴子、柴田 真実										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1	人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
	DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
	DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
	DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標(GIO)》

リハビリテーションを考究し続ける理学療法士になるために、リハビリテーションを概観し、特にパラスポーツを理解すること。

《テキスト》

久保俊一：『リハビリテーション医学・医療コアテキスト第2版』、医学書院、2022年。

《参考図書》

砂原茂一、「リハビリテーション」、岩波新書、1980。上田敏、「リハビリテーション 新しい生き方を創る医学」、ブルーバックス、1996。長谷川幹、「リハビリ 生きる力を引き出す」、岩波新書、2019。

《行動目標(SBOs)》

1. リハビリテーション歴史と理念を説明できる。
2. 医学的リハビリテーションの概要を理解できる。
3. 障害とは何か、理解できる。
4. リハビリテーションの多様性を説明できる。
5. パラスポーツの概要を理解できる

《学生の留意点》

理学療法士の業務の場であるリハビリテーションの理念、歴史、実際と未来について学び、療法士の主な対象者である患者、障がい者を全人的に理解することを学んでください。各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施しない

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《成績評価の方法》

各回の課題で評価する(100%)。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における医師・理学療法士・作業療法士としての実務経験を、専門分野の観点から授業内容に活かした科目としている。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	山田	オリエンテーション	導入、リハビリテーションの定義とその諸相
2	講義教室	外来講師	リハビリテーションの歴史と理念	リハビリテーションの歴史、理念、チームアプローチ
3	講義教室	外来講師	リハビリテーション医療	評価会議とゴール設定、リハビリテーションプログラム、クリニカルパス
4	講義教室	外来講師	医学的リハビリテーション	病期別リハビリテーション、地域リハビリテーション
5	講義教室	山田	リハビリテーションの理念と社会医学技術学院	社会医学技術学院創設者の目指したリハビリテーションとは
6	講義教室	浅沼	専門職に求められるもの	チームにおける理学療法士・作業療法士の役割と責任
7	実技教室	藤川	障害体験①	肢体不自由
8	実技教室	藤川	障害体験②	視覚障がい、聴覚・音声言語障がい
9	実技教室	藤川	パラスポーツ①	障がい者スポーツの意義と理念
10	実技教室	藤川	パラスポーツ②	スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質
11	実技教室	藤川	パラスポーツ③	全国障がい者スポーツ大会の概要
12	実技教室	藤川	パラスポーツ④	実技
13	講義教室	柴田	障害とは	定義、歴史、国際生活機能分類、自立生活、ノーマライゼーション
14	講義教室	柴田	患者・障害者の心理・社会的側面①	患者・障がい者の心理・障害受容
15	講義教室	柴田	患者・障害者の心理・社会的側面②	チームにおける理学療法士・作業療法士の役割と責任

《専門分野 基礎理学療法学》

科目名	理学療法概論										
担当者氏名	小宮山 一樹										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1	人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									○
	DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
	DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
	DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標(GIO)》

理学療法ならびに理学療法士とは何かを理解するために、その歴史、機能、社会の中の役割、構造、学問体系を概観する。

《テキスト》

なし

《参考図書》

有馬慶美他編「概説理学療法第3版～基礎から築く理学療法の知～」

《行動目標(SBOs)》

1. 理学療法の定義を説明できる。
2. 社会の中の理学療法の役割を説明できる。
3. 理学療法士に求められる倫理を説明できる。
4. 理学療法のプロセスを説明できる。
5. 運動療法について説明できる。
6. 日常生活動作練習について説明できる。
7. 疾患別理学療法について説明できる。
8. 医療安全について説明できる。
9. 理想の理学療法について記述できる。

《学生の留意点》

「理学療法」・「理学療法士」とは何かを理解し、あなたが目指す理学療法士像を可視化して、これからの学びの糧になることを期待しています。
各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施しない

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を臨床能力獲得と必要な知識の獲得に活かした授業としている。

《成績評価の方法》

課題100%

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	小宮山	リハビリテーション・理学療法とは	リハビリテーション、理学療法の歴史と定義について学ぶ。
2	講義教室	小宮山	理学療法とは・理学療法士とは	理学療法の方法や対象について学ぶ。また理学療法士の職域、社会の中の位置づけについて学ぶ。
3	講義教室	小宮山	医療倫理・職業倫理	理学療法士に必要な倫理について学ぶ。
4	講義教室	小宮山	理学療法士養成カリキュラム①	本学の全授業を概観する。グループワーク。
5	講義教室	小宮山	理学療法士養成カリキュラム②	全授業をマッピングし、卒業までの過程をイメージする。グループワーク。
6	講義教室	小宮山	理学療法士に必要な知識と技術①	提示された症例について、理学療法士に必要な知識や技術を考える。グループワーク。
7	講義教室	小宮山	理学療法士に必要な知識と技術②	提示された症例について、理学療法士に必要な知識や技術を考え、共有する(発表)。グループワーク。
8	講義教室	小宮山	理学療法プロセスの理解	理学療法の一連の流れ(理学療法プロセス)について学ぶ。
9	講義教室	小宮山	運動療法と日常生活動作練習	運動療法や日常生活動作練習の概要、種類を学ぶ。また、体験する。
10	講義教室	小宮山	疾患別理学療法(運動器)	運動器疾患の理学療法について学ぶ。
11	講義教室	小宮山	疾患別理学療法(中枢神経・内部障害)	中枢神経疾患、内部障害の理学療法について学ぶ。
12	講義教室	小宮山	理学療法機器	理学療法に使用する機器について学ぶ。
13	講義教室	小宮山	医療安全	理学療法士のリスクマネジメントについて学ぶ。
14	講義教室	小宮山	理学療法を学ぶこと	理学療法を学ぶことの楽しさ、意味を知る。
15	講義教室	小宮山	理想の理学療法士像	理想の理学療法士とは？グループワーク。

《専門分野 基礎理学療法学》

科目名	理学療法演習Ⅰ										
担当者氏名	林 佑樹, 沼尾 拓, 杉村 夕										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										○
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標 (GIO)》

臨床見学実習の目標を達成するために、理学療法士としての自覚を養いその職務を理解するとともに、臨床現場での基礎的な医療スキルを修得する。

《テキスト》

特に指定しない

《参考図書》

特に指定しない

《行動目標 (SBOs)》

1. 臨床見学実習の目的を説明できる。
2. 理学療法士の役割と責任を自分の言葉で説明できる。
3. 時間厳守や身だしなみ、倫理的な判断など、専門職としての基本的な姿勢を身につけ、医療チームの一員としての協調性を発揮できる。
4. 手洗いや感染予防対策、介助などの基本的な技術を正しく実践できる。
5. 学習習慣を身につけ、既習の基礎医学知識を活用できる。

《学生の留意点》

医療人としてのマナーや、外部施設とのかかわりを持つうえでの留意点を学んでいきます。社会医学技術学院の学生としての自覚を持ち、適切な立ち振る舞いが実践できるような意識で臨んでください。各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施しない

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かした内容になっている。

《成績評価の方法》

小テスト100%

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	沼尾/林	専門職としての適性およびふさわしい態度	臨床実習の心構え
2	講義教室	沼尾/林	専門職としての適性およびふさわしい態度	基礎知識の確認 ～小テスト解剖生理1～
3	講義教室	沼尾/林	専門職としての適性およびふさわしい態度	感染対策、手指衛生（実技）
4	講義教室	沼尾/林	専門職としての適性およびふさわしい態度	基礎知識の確認 ～小テスト解剖生理2～
5	講義教室	沼尾/林	専門職としての適性およびふさわしい態度	個人情報保護
6	講義教室	沼尾/林	専門職としての適性およびふさわしい態度	基礎知識の確認 ～小テスト解剖生理3～
7	講義教室	沼尾/林	専門職としての適性およびふさわしい態度	医療安全
8	講義教室	沼尾/林	専門職としての適性およびふさわしい態度	基礎知識の確認 ～小テスト解剖生理4～
9	講義教室	沼尾/林	専門職としての適性およびふさわしい態度	危険予知トレーニング
10	講義教室	沼尾/林	専門職としての適性およびふさわしい態度	基礎知識の確認 ～小テスト解剖生理5～
11	講義教室	杉村	専門職としての適性およびふさわしい態度	ストレスマネジメント
12	講義教室	沼尾/林	専門職としての適性およびふさわしい態度	基礎知識の確認 ～小テスト解剖生理6～
13	講義教室	沼尾/林	専門職としての適性およびふさわしい態度	能動的見学のポイント
14	講義教室	沼尾/林	専門職としての適性およびふさわしい態度	基礎知識の確認 ～小テストまとめ～
15	講義教室	沼尾/林	実習オリエンテーション	臨床見学実習の目的、臨床実習ガイド読み合わせ、体調不良時の対応、臨床実習ポートフォリオ

《専門分野 理学療法評価学》

科目名	フィジカルアセスメント										
担当者氏名	湯浅 英慈										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1	人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
	DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
	DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
	DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標(GIO)》

対象者に応じたフィジカルアセスメント（視診・触診・聴診・打診）や各検査測定（血圧・脈拍測定）が自ら実践できるようになるために、解剖生理での裏付けや結果の解釈を系統的に学習する。

《テキスト》

運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢・下肢）

《参考図書》

《行動目標(SBOs)》

1. 解剖・生理学の知識を実技結果と結びつけることができる。
2. 対象者に対して血圧測定ができる。
3. 対象者に対して触診ができる。
4. 対象者に対して肢長周径の測定ができる。
5. 基本的なバイタルチェックを実施できる。

《学生の留意点》

講義前に実技のできる服装に着替え、必要物品を準備すること。積極的に参加し技術習得に努めること（実技に参加しない、私語・スマートフォン操作等、講義・技術習得の妨げとなる行為があった場合は欠席扱いとし、退室を命ずることがある）。知識面・実技の復習を必ず行うこと。各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

（＊期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《成績評価の方法》

実技試験(50点)、筆記試験(50点)にて評価する。下記に1つでも該当する場合、再試験を課す。①実技試験得点率60%未満、②筆記試験得点率60%未満、③合計得点60点未満。なお、本科目は臨床実践能力の習得に加え、基礎知識に基づいて判断する知識の習熟も重視しているため、再試験は筆記試験・実技試験ともに実施する。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	湯浅	オリエンテーション・バイタルサイン①	オリエンテーション、バイタルサインとは（視診・触診・聴診・血圧・脈拍）。
2	実技教室	湯浅	バイタルサイン②	実技（脈拍、血圧測定）
3	実技教室	湯浅	触診（骨）①	実技（ランドマークの触診）
4	実技教室	湯浅	触診（骨）②	実技（ランドマークの触診）
5	実技教室	湯浅	触診（骨）③	実技（ランドマークの触診）
6	実技教室	湯浅	身体測定①	実技（四肢長・周径測定）
7	実技教室	湯浅	触診（筋）①	上肢の筋
8	実技教室	湯浅	触診（筋）②	上肢の筋
9	実技教室	湯浅	触診（筋）③	上肢の筋
10	実技教室	湯浅	触診（筋）④	下肢の筋
11	実技教室	湯浅	触診（筋）⑤	下肢の筋
12	実技教室	湯浅	触診（筋）⑥	下肢の筋
13	実技教室	湯浅	触診（筋）⑦	体幹の筋
14	実技教室	湯浅	触診（筋）⑧	頸部・頭部の筋
15	実技教室	湯浅	総合演習	血圧測定・肢長周径・触診

《専門分野 理学療法評価学》

科目名	理学療法評価学 I a										
担当者氏名	沼尾 拓										
授業方法	実技	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

理学療法評価の総論を踏まえ、信頼性のある理学療法評価を実施できるようになるため、関節可動域測定の意義・目的・方法を説明することができ、実施することができる。

《テキスト》

松澤正, 江口勝彦:『理学療法評価学 改訂第6版』. 金原出版補訂版. 2022年

《参考図書》

1. 青木主悦:『ROMナビ』. 有限会社ラウンドフラット. 2013年
2. 中村隆一 斎藤宏 長崎浩 著:『基礎運動学 第6版 補訂』. 医歯薬出版株式会社. 2018年.
3. 隈元庸夫編集:『臨床ROM 測定からエクササイズまで』. ヒューマンプレス. 2017年.

《行動目標(SBOs)》

1. 理学療法評価の目的と意義・過程を説明できる。
2. 関節可動域測定の定義・目的・過程を説明できる。
3. 実施に当たり、適切なオリエンテーションができる。
4. 関節可動域測定に必要なランドマークの触診ができる。
5. 基本軸・移動軸を説明できる。
6. 各関節の最終域感の確認と、制限因子の予測ができる。

《学生の留意点》

実技が中心となる科目です。白衣（ケーシー）着用、名札の着用など、臨床現場で求められることを意識して臨んでください。運動方向の用語の理解、骨のランドマークを正確に触る技術が必要になりますので、解剖学や運動学、フィジカルアセスメントの内容をよく復習して授業に臨んでください。各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

（*期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

実技試験50%、筆記試験50%

合計点数が60%に満たない場合、筆記・実技両方を再試験として課す

《実務経験のある教員による科目》

当科目は沼尾拓（理学療法士）が担当し、その実務経験を授業内容の「理学療法評価演習の理解に向け検査測定とその解釈」に活かした授業としている。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	沼尾	理学療法評価とは 関節可動域測定・総論	理学療法評価総論 目的と意義、過程について 関節可動域を評価する意義、目的、過程 関節制限・最終域感について
2	実技教室	沼尾	関節可動域測定・各論 肘関節	オリエンテーション、用手接触について 肘関節 屈曲・伸展
3	実技教室	沼尾	関節可動域測定・各論 肩関節	肩関節 屈曲・伸展・内転・外転
4	実技教室	沼尾	関節可動域測定・各論 肩関節②	肩関節 外旋・内旋・水平屈曲・水平伸展
5	実技教室	沼尾	関節可動域測定・各論 肩甲帯	肩甲帯 屈曲・伸展・挙上・下制
6	実技教室	沼尾	関節可動域測定・各論 手関節	橈骨手根関節 掌屈・背屈・橈屈・尺屈
7	実技教室	沼尾	関節可動域測定・各論 前腕 股関節	前腕 回外・回内 股関節 屈曲・伸展
8	実技教室	沼尾	関節可動域測定・各論 股関節②	股関節 内転・外転・内旋・外旋
9	実技教室	沼尾	関節可動域測定・各論 膝関節 足関節	膝関節 屈曲・伸展 足関節 背屈・底屈
10	実技教室	沼尾	関節可動域測定・各論 足関節② 足部	足関節 内転・外転 足部 回内・回外
11	実技教室	沼尾	関節可動域測定・各論 足趾	中足趾節間関節・近位趾節間関節・遠位趾節間関節 屈曲・伸展
12	実技教室	沼尾	関節可動域測定・各論 手指 足趾②	中手指節間関節・近位指節間関節・遠位指節間関節 屈曲・伸展・外転・内転
13	実技教室	沼尾	関節可動域測定・各論 頸部 胸腰部	頸部 屈曲・伸展・回旋・側屈 胸腰部 屈曲・伸展・回旋・側屈
14	実技教室	沼尾	関節可動域測定・各論 その他の測定方法	メジャーを用いた測定、三関節角度計の紹介 症例演習
15	実技教室	沼尾	症例演習	症例演習

《専門分野 理学療法評価学》

科目名	理学療法評価学 I b										
担当者氏名	佐々木 亮平										
授業方法	実技	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

筋力低下の程度と関連要因を把握する評価が実施できるようになるために、徒手筋力測定ができるようになる。

《テキスト》

1. Helen J. Hislop, Jacqueline Montgomery著, 津山直一 訳：『新・徒手筋力検査法 原著第10版』。協同医書出版社, 2020年。

《参考図書》

なし

《行動目標(SBOs)》

1. 定義・目的・原則を説明できる。
2. 測定を実施する際に、適切なオリエンテーションが行える。
3. 測定時の代償動作を抑制が適切に行えるような肢位を取らせ、正しい固定にて徒手抵抗を加えることができる。
4. 上下肢・体幹の徒手筋力検査において各関節運動方向での主動作筋・測定肢位が言える。
5. 四肢周径を正しく検査することができる

《期末試験実施について》

実施する

（＊期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

期末試験 実技試験(70%),筆記試験(30%)
 実技・筆記試験において60%に満たない試験があり、かつ筆記・実技合計点数が60%に満たないものは実技試験・口頭質疑を再試験として課す。
 オンデマンドの場合、課題の内容に不備があれば出席とみなさないことがある。

《学生の留意点》

1. 解剖学・運動学の知識が前提となるので十分に復習をしてください。
2. 実技は動きやすい服装(触診が可能なようにTシャツ・短パン)に着替えてください。(デニム生地などは不可)
3. 数多くの経験をするために、実技では様々な人と練習を行います。
4. 各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を授業内容の「理学療法評価演習の理解に向け検査測定とその解釈」に活かした授業としている。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	実技教室	佐々木	徒手筋力測定	徒手筋力検査総論：意義・目的・原則 徒手筋力検査：膝関節伸展
2	実技教室	佐々木	徒手筋力測定	徒手筋力検査：股関節屈曲・伸展・外転
3	実技教室	佐々木	徒手筋力測定	徒手筋力検査：股関節屈曲と外転・内転・外内旋
4	実技教室	佐々木	徒手筋力測定	徒手筋力検査：屈曲・外転・外旋と膝関節屈曲、膝関節屈曲、足関節底屈
5	実技教室	佐々木	徒手筋力測定	徒手筋力検査：足関節背屈と内がえし、足関節内がえし、足関節底屈と外がえし
6	実技教室	佐々木	徒手筋力測定	徒手筋力検査：肩甲骨外転と上方外旋、肩甲骨掌上、肩甲骨内転
7	実技教室	佐々木	徒手筋力測定	徒手筋力検査：肩甲骨下制と内転、肩甲骨下制と下方回旋、肩関節屈曲
8	実技教室	佐々木	徒手筋力測定	徒手筋力検査：肩関節外転、肩関節伸展、肩関節水平外転
9	実技教室	佐々木	徒手筋力測定	徒手筋力検査：肩関節水平内転、肩関節外旋、内旋
10	実技教室	佐々木	徒手筋力測定	徒手筋力検査：肘関節屈曲、肘関節伸展、前腕回外・回内
11	実技教室	佐々木	徒手筋力測定	徒手筋力検査：手関節掌屈、手関節背屈、頭部・頸部伸展
12	実技教室	佐々木	徒手筋力測定	徒手筋力検査法：頭部・頸部屈曲、体幹伸展
13	実技教室	佐々木	徒手筋力測定	徒手筋力検査法：体幹屈曲、体幹回旋
14	実技教室	佐々木	発展	四肢長・四肢周径測定との統合と解釈
15	実技教室	佐々木	演習	演習 単位時間内での測定とその工夫、メモについて

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	物理療法学Ⅰ										
担当者氏名	中村 壮大										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
		DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
		DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
		DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標(GIO)》

対象者に対して、各種物理療法を的確に実施できるようになるために、生理学的作用とその効果、および実施する上での適応、禁忌、注意事項を理解し、安全に物理療法を実施できる。

《テキスト》

石川朗総編集：「物理療法学・実習 第2版 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト」. 中山書店. 2025.

《参考図書》

Michelle H. Cameron編著, 渡部一郎 訳：「EBM物理療法 原著第4版」. 医歯薬出版. 2015年.
細田多穂監修：「物理療法テキスト 改訂第3版」. 南江堂. 2021.

《行動目標(SBOs)》

1. 物理療法を実施する上での適応、禁忌、注意事項を説明できる。
2. 各種物理的刺激による生理学的作用とその効果について説明できる。
3. 適応となる症状を理解し、どのように作用するか説明できる。
4. 物理療法(理学療法)を実施する上での一連の流れを説明できる。
5. 各種物理療法の手順、方法を理解し、実施できる。

《学生の留意点》

物理療法実技は動きやすい服装で参加してください。
本講義は、2年次の物理療法Ⅱと系統立てて行われます。
各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《成績評価の方法》

期末試験 筆記試験100%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は、理学療法士が担当し、その実務経験を臨床能力と必要な知識の獲得に活かした内容である。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	中村	物理療法学Ⅰ概論	コースオリエンテーション（物理療法の定義・授業構成），物理療法の適応と禁忌
2	講義教室	中村	疼痛と理学療法その1	疼痛の定義と意義 ～痛み の定義・メカニズム～
3	講義教室	中村	疼痛と理学療法その2	疼痛の定義と意義 ～痛み の評価～
4	講義教室	中村	炎症と理学療法	急性炎症および組織の修復過程 ～問診方法と炎症の5徴候～
5	講義教室	中村	寒冷療法その1	寒冷療法(アイスパック・氷嚢・クリッカー)の理論
6	実技教室	中村	寒冷療法その2	寒冷療法(アイスパック・氷嚢・クリッカー)の実際
7	講義教室	中村	急性期の理学療法	急性期の理学療法まとめ
8	講義教室	中村	温熱療法その1	温熱療法(ホットバックとパラフィン)の理論
9	実技教室	中村	温熱療法その2	温熱療法(ホットバックとパラフィン)の実際
10	講義教室	中村	温熱療法その3	超短波
11	講義教室	中村	温熱療法その4	極超短波
12	講義教室	中村	超音波療法	超音波
13	講義教室	中村	牽引療法その1	牽引療法の理論
14	実技教室	中村	温熱療法その2	牽引療法の実際
15	実技教室	中村	関節可動域制限の理学療法とマッサージ療法	関節可動域制限に対する理学療法（CPM），マッサージ療法

《専門分野 地域理学療法学》

科目名	生活環境支援理学療法学										
担当者氏名	藤川 明代										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

自立支援の為に、車椅子・福祉機器・住宅改造・周辺環境を含めた内容を理解し、すべての人が生活する上で必要なツール、援助を理学療法の観点から学ぶ。

《テキスト》

なし

《参考図書》

国際福祉機器展H.C.R.2021 福祉機器 選び方・使い方 副読本
基本動作編・住宅改修編・自立支援編 (データ資料)

《行動目標(SBOs)》

1. 車椅子の使用目的・機能を説明でき、操作方法を指導できる。
2. 福祉機器の目的・機能を説明でき操作方法を指導でき、調整等ができる。
3. 車椅子のシーティングシステムを対象者に適用させる経験をする。
4. 住環境および自宅周辺環境について説明することができる。

《学生の留意点》

- ・主体的に授業に取りむこと。
- ・校外授業においては社会人として適切な言動を身に着けてほしい。
- ・実技を行う際には、実技にふさわしい身だしなみとし、学院の感染対策に則って行う。
- ・各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《成績評価の方法》

授業内課題(校外施設見学、体験についての課題も含む) (70%)
筆記試験(30%)

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を授業内容に活かした授業としている。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	藤川	オリエンテーション	障がいとは何か 支援とは何か
2	講義教室	藤川	移動	福祉車両について 目的・機能・操作方法について知る
3		藤川	施設見学1(参加)	国立リハビリテーションセンター見学 《障がい者の自立支援について》
4	実技教室	藤川	車いすについて	車いすの名称・操作①
5	実技教室	藤川	環境設定について	リフト・ベッドについて目的・機能・操作方法について知る
6	実技教室	藤川	バリアフリーについて 施設見学2(オリエンテーション)	バリアフリーマップ作成について アビリティーズ見学について
7	講義教室	藤川	施設見学1(振り返り)	国立リハビリテーションセンター振り返り
8	オンデマンド	藤川	バリアフリーマップについて (実施)	現地調査・マップ作製(グループワーク)
9	オンデマンド	藤川	バリアフリーマップについて (実施)	現地調査・マップ作製(グループワーク)
10	実技教室	藤川	補装具について	歩行補助具使い方
11		藤川	施設見学2(参加)	アビリティーズ見学参加《在宅での自立支援について》
12	実技教室	藤川	施設見学2(振り返り)	アビリティーズ見学振り返り
13	講義教室	藤川	自助具について①	自助具の使い方・名称
14	講義教室	藤川	自助具について②	自助具の使い方・名称
15	講義教室	藤川	バリアフリーマップについて	発表

《専門分野 臨床実習》

科目名	臨床見学実習										
担当者氏名	林 佑樹, 沼尾 拓										
授業方法	実習	単位数	1	回数	-	時間数	45	開講年次	1	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										○
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標 (GIO)》

理学療法士の仕事を理解し、そのキャリア形成の第1歩とするために、早期に臨床見学を体験する。また、臨床現場の見学を通じて、理学療法士の役割やリハビリテーションのあり方を学び、また理学療法士および医療専門職として適切な態度や行動を養う。これらを通して、理学療法士としての自覚と学修意欲の向上を図る。

《テキスト》

なし

《参考図書》

なし

《行動目標 (SBOs)》

1. 実習施設の規模や役割を説明できる。
2. 実習施設のリハビリテーション全体における位置づけ、理学療法・作業療法部門の組織、役割を説明できる。
3. 関連する他部門の役割と連携について説明できる。
4. 挨拶・報告・連絡・相談を実践できる。
5. 感染予防、医療安全、個人情報保護を遵守できる。
6. 望ましい理学療法士像を述べることができる。

《学生の留意点》

何を見学するのかを明確にし、理学療法士と対象者の関わり方がどのように行われていたのか、対象者の困りごとは何なのかを見学していただくこと。また、その上であいさつや質問などを自ら積極的にできるように心がけること。

《期末試験実施について》

実施しない

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《成績評価の方法》

最終的な単位認定は、臨床実習指導者による臨床評価と臨床実習ポートフォリオ・実習後セミナーの内容を総合的に勘案して学院が決定します。評定は「合」・「否」の2段階で行います。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における理学療法士が、その実務経験を活かした科目となっている。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1			施設の特徴を知る。理学療法士の役割を知る。	5日間の臨床見学実習
2			共有	実習後セミナー
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	医療コミュニケーション論Ⅱ										
担当者氏名	沼尾 拓、湯浅 英慈										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1	人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									○
	DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
	DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									○
	DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標(GIO)》

医療従事者として、人々と相互に信頼される関係性を築き、対象者及び対象者に関わる人たちが自己決定できるように、お互いの考えを認知・共感・理解するために、良好な関係性を築くコミュニケーション能力を身につける。

《テキスト》

なし

《参考図書》

石川ひろの、『保健医療専門職のためのヘルスコミュニケーション学入門』。大修館書店。2020年。
奈良勲、『理学療法の本質を問う』。医学書院。2002年。

《行動目標(SBOs)》

1. 良好な人間関係を築く（対象者の心理的・社会的背景を理解し、対象者や家族のニーズを把握できる）ために、他者の意見を傾聴し、理解、共感できる。
2. 対象者や家族に関する情報の重要性について理解し、取得した情報の安全管理（電子媒体も含む）ができる。
3. 人々の相互関係を成立させるための非言語的コミュニケーション（身だしなみ、視線、表情、ジェスチャー等）能力を含めた適切な（できるだけ専門用語を使わず、わかりやすく）コミュニケーションがとれる。
4. 「共同意思決定」、「コーチング」を理解し、実践できる。

《期末試験実施について》

実施しない

（＊期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

授業内課題 100%

《学生の留意点》

医療現場での他職種および対象者とのコミュニケーションを十分に習得するために、積極的に参加すること。また、授業時間内に自己評価のために各自で動画撮影を行うことがある。授業内提出課題がそのまま評定に反映されるので、注意すること。各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、実践的コミュニケーションにおける実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	沼尾/湯浅	1年の復習① コミュニケーションの要素	コミュニケーションとは、第一印象、他者理解、自己表現、関係性、言葉使い、メール
2	講義教室	沼尾/湯浅	1年の復習② 医療職として	傾聴、共感、アサーション、信頼関係、医療面接
3	講義教室	沼尾/湯浅	自己理解	ジョハリの窓
4	講義教室	沼尾/湯浅	他者理解・適応	コミュニケーションタイプ
5	講義教室	沼尾/湯浅	医療職としてのコミュニケーションスキル③	認知症の方とのコミュニケーション
6	講義教室	沼尾/湯浅	医療職としてのコミュニケーションスキル④	対象者の意思決定を支援するコミュニケーションスキル 共同意思決定
7	講義教室	沼尾/湯浅	医療職としてのコミュニケーションスキル⑤	行動変容を促すコミュニケーションスキル コーチング
8	講義教室	沼尾/湯浅	社会参加制約者（障がいのある方）との交流	視覚障がいについて
9	講義教室	沼尾/湯浅	前半の振り返り	前半の「ふりかえり」と1年生との「合同授業」の準備
10	講義教室	沼尾/湯浅	社会参加制約者（障がいのある方）との交流	視覚障がい者との対話
11	講義教室	沼尾/湯浅	1・2年合同授業 【1年生主体】	下級生との対話①
12	講義教室	沼尾/湯浅	1・2年合同授業 【1年生主体】	下級生との対話②
13	実技教室	沼尾/湯浅	1・2年合同授業 【2年生主体】	対象者の立場に立つて① 理学療法検査測定の実験者体験
14	実技教室	沼尾/湯浅	1・2年合同授業 【2年生主体】	対象者の立場に立つて② 理学療法検査測定の実験者体験
15	講義教室	沼尾/湯浅	まとめ	今までの「学び」とこれからの「課題」

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	運動学演習										
担当者氏名	沼尾 拓										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》
バイオメカニクス・運動学Ⅰ・Ⅱで習った知識を実際の運動に結び付けるために、機器を用いた測定を通じて理解する。

《テキスト》
なし

《参考図書》
中村隆一他：『基礎運動学第7版』，医歯薬出版株式会社，2025年。
臨床歩行分析研究会：『姿勢・動作・歩行分析 第2版(PT・OTビジュアルテキスト)』，羊土社，2023年

《行動目標(SBOs)》
・運動の際の重心移動・床反力・関節運動・筋収縮を説明できる。
・筋力について，その収縮様式ごとの特性を説明できる。
・呼吸代謝のメカニズムを説明できる。

《学生の留意点》
各単元で理解した内容を文章で説明する課題を課します。
しっかりとメモを取りながら授業に参加してください。
各回の受講に際し，十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》
実施する

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《実務経験のある教員による科目》
当科目は、沼尾拓（理学療法士）が担当し，その実務経験を生かした内容である。

《成績評価の方法》
課題50%、筆記試験50%

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	沼尾	コースオリエンテーション	重力のある世界で運動するとは 歩行用語
2	講義教室	沼尾	歩行用語	基本歩行用語・相分け
3	講義教室	沼尾	正常歩行時の重心移動	
4	講義教室	沼尾	正常歩行時の床反力制御	
5	講義教室	沼尾	正常歩行時の関節運動	
6	講義教室	沼尾	正常歩行時の筋活動	
7	実技教室	複数	演習①	単元1：筋張力と筋力 単元2：正常歩行の筋活動 単元3：運動と呼吸代謝 単元4：立ち上がり時の身体重心軌跡と床反力
8	実技教室	複数	演習①	クラスを4班に分け上記単元1-4を演習①-④で順に実験していきます
9	実技教室	複数	演習②	同上
10	実技教室	複数	演習②	同上
11	実技教室	複数	演習③	同上
12	実技教室	複数	演習③	同上
13	実技教室	複数	演習④	同上
14	実技教室	複数	演習④	同上
15	講義教室	沼尾	まとめ	

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	病理学概論										
担当者氏名	福井 謙二										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		DP1	人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人								
		DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人								○
		DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人								
		DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人								

《一般教育目標 (GIO)》

疾病の原因と、それによって生じる形態学的な変化を理解し、さらにどのような機能的障害が引き起こされるかを理解する。
病理学はしばしば基礎医学と臨床医学の境界領域に位置づけられるが、この授業で習得した知識や考え方が臨床医学の場で発展されることを目指す。

《テキスト》

系統看護講座 病理学 第6版 ～疾病のなりたちと回復の促進
[1], 医学書院

《参考図書》

必要に応じて紹介します。

《行動目標 (SBOs)》

1. 全身の各臓器に共通な病変を分類し説明できる。
2. 各臓器・系統別に疾病の成り立ちについて説明できる。

《学生の留意点》

各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《成績評価の方法》

筆記試験 (100%)

《実務経験のある教員による科目》

当科目は、外部講師の福井先生（医師）が担当し、実務経験を活かした授業としています。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	福井	病理学とは、病理診断、病因論	病理学の位置づけ、病理診断の実際、疾病の原因
2	講義教室	福井	先天異常、奇形	先天異常・奇形の分類、病態、遺伝性疾患、染色体異常、胎芽病、胎児病
3	講義教室	福井	退行性病変	退行性病変の種類、病態、萎縮、変性、壊死
4	講義教室	福井	進行性病変	進行性病変の種類、病態 肥大、過形成、再生、化生、創傷治癒
5	講義教室	福井	循環障害	循環障害の種類、病態、充血、うっ血、浮腫、虚血、梗塞、血栓症、塞栓症、側副循環、出血、ショック
6	講義教室	福井	炎症	炎症の種類、病態 炎症細胞、変質性炎、滲出性炎、増殖性炎
7	講義教室	福井	免疫、感染症	アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全、日和見感染症、菌交代現象、院内感染症、感染経路、感染源
8	講義教室	福井	腫瘍、死因統計	良性腫瘍、悪性腫瘍、上皮性腫瘍、非上皮性腫瘍、癌腫、肉腫、悪性腫瘍の広がり、 腫瘍の病因、死因別死亡率、部位別死亡率
9	講義教室	福井	循環器系の疾患	虚血性心疾患、心肥大、先天性心疾患、心内膜の疾患、心臓弁膜症 動脈硬化症、動脈瘤
10	講義教室	福井	血液・造血器系の疾患	鉄欠乏性/巨赤芽球性/再生不良性/溶血性貧血、急性/慢性骨髄性白血病、急性リンパ性白血病、 リンパ腫、多発性骨髄腫
11	講義教室	福井	呼吸器系の疾患	鼻炎・副鼻腔炎、かぜ症候群、上気道の悪性腫瘍、肺癌、肺炎、エコノミークラス症候群
12	講義教室	福井	消化器系の疾患	口腔の2大疾患、唇顎口蓋裂、口腔癌、食道炎、食道静脈瘤、食道癌、胃炎、 胃潰瘍、胃癌、炎症性腸疾患、大腸癌、肝炎、肝硬変、肝臓癌、胆石症、膵炎、膵癌
13	講義教室	福井	腎・泌尿器系、生殖器系、乳腺の疾患	馬蹄腎、尿路結石症、糸球体腎炎、腎盂腎炎、ネフローゼ症候群、腎細胞癌、腎芽腫、膀胱癌、 前立腺癌、前立腺肥大症、精巣腫瘍、子宮筋腫、子宮癌、乳癌
14	講義教室	福井	神経系の疾患	脳梗塞、一過性脳虚血発作、脳出血、くも膜下出血、硬膜下出血、硬膜外出血、多発性硬化症、 アルツハイマー病、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、脳腫瘍
15	講義教室	福井	運動器系の疾患	筋萎縮性側索硬化症、デュシェンヌ型筋ジストロフィー、重症筋無力症、 骨折、骨粗鬆症、骨髄炎、関節リウマチ、骨肉腫

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	臨床神経学										
担当者氏名	山本 敏之										
授業方法	講義・演習	単位数	3	回数	30	時間数	60	開講年次	2	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1	人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
	DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
	DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
	DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標(GIO)》

理学療法へ展開するために、神経障害を生じる主な疾患の疫学、病態、予後、症状、評価・検査、一般的治療について広く学ぶ。

《テキスト》

江藤文夫 編『神経内科学テキスト』、南江堂、2017。

《参考文献》

《行動目標(SBOs)》

1. 脳神経内科疾患の成因と分類について説明できる。
2. 神経学的検査、画像検査などについて説明できる。
3. 脳神経内科領域の主な疾患について、その特徴を説明できる。

《学生の留意点》

脳神経内科の領域は覚えることがたくさんありますが、その知識は、臨床の現場で必ず必要になります。能率よく勉強しましょう。各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における神経内科学医師としての実務の経験を生かした科目としている。

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験）100%

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	山本	総論1	神経解剖学の基礎/神経生理学の基礎
2	講義教室	山本	総論2	神経診断学：病歴の取り方、神経学的診察法
3	講義教室	山本	総論3	検査法：画像診断、電気生理学的検査、筋生検・神経生検、髄液検査
4	講義教室	山本	総論4	治療総論
5	講義教室	山本	症候学1	意識障害
6	講義教室	山本	症候学2	脳神経系
7	講義教室	山本	症候学3	運動系
8	講義教室	山本	症候学4	感覚系
9	講義教室	山本	症候学5	錐体外路症状、不随意運動
10	講義教室	山本	症候学6	運動失調
11	講義教室	山本	症候学7	歩行障害、自律神経系
12	講義教室	山本	症候学8	高次脳機能障害1：失語
13	講義教室	山本	症候学9	高次脳機能障害2：失行・失認
14	講義教室	山本	症候学10	脳血管障害1：脳血管の解剖、脳出血
15	講義教室	山本	各論1	脳血管障害2：脳梗塞、頭部外傷
16	講義教室	山本	各論2	変性疾患（1）パーキンソン病、パーキンソン症候群
17	講義教室	山本	各論3	変性疾患（2）脊髄小脳変性症
18	講義教室	山本	各論4	変性疾患（3）筋萎縮性側索硬化症
19	講義教室	山本	各論5	認知症疾患
20	講義教室	山本	各論6	中枢神経の脱髄疾患：多発性硬化症、視神経脊髄炎
21	講義教室	山本	各論7	末梢神経の脱髄疾患：ギランバレー症候群、慢性脱髄性炎症性ニューロパチー
22	講義教室	山本	各論8	ニューロパチー
23	講義教室	山本	各論9	筋疾患
24	講義教室	山本	各論10	神経筋接合部の疾患：重症筋無力症他
25	講義教室	山本	各論11	脊髄損傷
26	講義教室	山本	各論12	脳腫瘍/感染症/自律神経障害 他
27	講義教室	山本	各論13	全身疾患に伴う神経疾患/欠乏症/中毒
28	講義教室	山本	各論14	機能的疾患（てんかん、頭痛、めまい、睡眠障害）、嚥下障害
29	講義教室	山本	各論15	先天性異常、脳性麻痺
30	講義教室	山本	総括	試験に出る脳神経内科

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	整形外科学 I										
担当者氏名	下河辺 仁、福田 崇、坂田 晋一										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標 (GIO)》

運動器系理学療法を理解するために、整形外科の主要疾患の病態、症状、疫学、予後、評価・検査、一般的治療、リハビリテーションについて理解する。

《テキスト》

松野丈夫：『標準整形外科学』第16版．医学書院．

《参考図書》

神野哲也：ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション．羊土社．2024．

《行動目標 (SBOs)》

- 1. 骨、関節、筋、神経の解剖学の知識を理解できる。
- 2. 整形外科疾患の診断方法、検査方法を理解できる。
- 3. 保存的治療と手術的治療を説明できる。

《学生の留意点》

整形外科理学療法については実技授業です。爪、髪型など専門職に適した身だしなみで臨むこと。白衣または半袖ハーフパンツの格好に着替え、マスクを着用すること。特に筋の起始停止などフィジカルアセスメントの授業の復習を十分しておくこと。各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

（＊期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

期末試験95％、理学療法部分を授業課題5％

《実務経験のある教員による科目》

当科目は、医師と理学療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	オンデマンド	下河辺	概論①	整形外科学の歴史、概論
2	オンデマンド	下河辺	概論②	整形外科学の歴史、概論
3	オンデマンド	下河辺	基礎①	整形外科学基礎科学、骨、関節、筋、神経
4	オンデマンド	下河辺	基礎②	整形外科学基礎科学、骨、関節、筋、神経
5	オンデマンド	下河辺	総論①	整形外科診断学総論、整形外科治療総論
6	オンデマンド	下河辺	総論②	整形外科診断学総論、整形外科治療総論
7	オンデマンド	下河辺	疾患総論Ⅰa	感染症、関節リウマチとその類縁疾患
8	オンデマンド	下河辺	疾患総論Ⅰb	感染症、関節リウマチとその類縁疾患
9	オンデマンド	下河辺	疾患総論Ⅱa	慢性関節疾患、四肢循環障害
10	オンデマンド	下河辺	疾患総論Ⅱb	慢性関節疾患、四肢循環障害
11	オンデマンド	下河辺	疾患総論Ⅲ	先天性疾患、代謝性疾患
12	オンデマンド	下河辺	疾患総論Ⅳa	骨腫瘍・軟部腫瘍、神経疾患・筋疾患
13	オンデマンド	下河辺	疾患総論Ⅳb	骨腫瘍・軟部腫瘍、神経疾患・筋疾患
14	実技教室	坂田/福田	整形外科理学療法①	運動器疾患のリハビリテーション医療
15	実技教室	坂田/福田	整形外科理学療法②	運動器疾患のリハビリテーション医療

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	整形外科科学Ⅱ										
担当者氏名	下河辺 仁、福田 崇、坂田 晋一										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標（GIO）》

運動器系理学療法を理解するために、整形外科の主要疾患の病態、症状、疫学、予後、
評価・検査、一般的治療、リハビリテーションについて理解する。

《テキスト》

松野丈夫：『標準整形外科学』第16版。医学書院。

《参考図書》

神野哲也：ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション。羊土社。2024。

《行動目標（SBOs）》

1. 各疾患の発生要因を理解できる。
2. 各疾患の代表的な疾患名を列挙し、症状について説明できる。
3. 各疾患の診断方法、治療方法を説明できる。

《学生の留意点》

整形外科理学療法については実技授業です。爪、髪型など専門職に適した身だしなみで臨むこと。白衣または半袖ハーフパンツの格好に着替え、マスクを着用すること。特に筋の起始停止などフィジカルアセスメントの授業の復習を十分しておくこと。各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

（＊期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

期末試験95％、授業課題5％

《実務経験のある教員による科目》

当科目は、医師と理学療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	実技教室	坂田/福田	整形外科理学療法①	運動器疾患のリハビリテーション医療
2	実技教室	坂田/福田	整形外科理学療法②	運動器疾患のリハビリテーション医療
3	オンデマンド	下河辺	疾患各論Ⅰa	肩，肘，手関節および手指
4	オンデマンド	下河辺	疾患各論Ⅰb	肩，肘，手関節および手指
5	オンデマンド	下河辺	疾患各論Ⅱa	脊椎および体幹
6	オンデマンド	下河辺	疾患各論Ⅱb	脊椎および体幹
7	オンデマンド	下河辺	疾患各論Ⅲa	股関節
8	オンデマンド	下河辺	疾患各論Ⅲb	股関節
9	オンデマンド	下河辺	疾患各論Ⅳa	膝，足関節および足指
10	オンデマンド	下河辺	疾患各論Ⅳb	膝，足関節および足指
11	オンデマンド	下河辺	外傷学Ⅰa	軟部組織損傷，骨折，脱臼総論
12	オンデマンド	下河辺	外傷学Ⅰb	軟部組織損傷，骨折，脱臼総論
13	オンデマンド	下河辺	外傷学Ⅱ	骨折，脱臼
14	オンデマンド	下河辺	外傷学Ⅲa	脊髄損傷，末梢神経障害
15	オンデマンド	下河辺	外傷学Ⅲb	脊髄損傷，末梢神経障害

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	臨床内科学 I										
担当者氏名	木下 潤一郎										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

理学療法・作業療法へ展開するために、主な内科疾患の病態、症状、疫学、予後、評価・検査、一般的治療を知る。

《テキスト》

中島雅美 編：『PT・OT基礎から学ぶ内科学ノート 第2版』。医歯薬出版。2019年。

《参考図書》

奈良 勲 監：『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学』第2版。医学書院。2014年。

《行動目標(SBOs)》

1. 主な循環器疾患、代謝性疾患、消化器疾患、呼吸器疾患を列挙でき、特徴について説明ができる。
2. 内分泌疾患を列挙でき、特徴について説明ができる。
3. 泌尿器疾患を列挙でき、特徴について説明ができる。
4. 血液・免疫疾患を列挙でき、特徴について説明ができる。

《学生の留意点》

内科で扱う疾患は理学療法との直接の関係を持たないものも多いが、種々の病態を引き起こす基礎として存在している。また医療に従事する者の常識として内科疾患に対してある程度の知識が必須なので、積極的な学習を望む。各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《実務経験のある教員による科目》

当科目は医師が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《成績評価の方法》

筆記試験 100%

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	オンデマンド	木下	消化器疾患1	消化器系の解剖生理学、消化器疾患の症候・病態生理・検査法、消化管疾患各論
2	オンデマンド	木下	消化器疾患2	付属器（肝・胆・膵）疾患各論
3	オンデマンド	木下	代謝性疾患1	代謝の生理学・糖代謝障害（糖尿病・低血糖症）
4	オンデマンド	木下	代謝性疾患2	脂質代謝障害
5	オンデマンド	木下	代謝性疾患3	痛風・骨粗鬆症
6	オンデマンド	木下	循環器疾患1	循環器の解剖生理学、循環器疾患の検査、心不全
7	オンデマンド	木下	循環器疾患2	虚血性心疾患・心弁膜疾患
8	オンデマンド	木下	循環器疾患3	不整脈、心筋疾患、心膜炎、肺性心、肺高血圧症、肺塞栓、大動脈疾患、末梢血管疾患、高血圧
9	オンデマンド	木下	呼吸器疾患1	呼吸器の解剖生理学、呼吸器系の検査、呼吸不全、閉塞性換気障害
10	オンデマンド	木下	呼吸器疾患2	拘束性換気障害、感染性肺疾患、肺腫瘍、肺塞栓症、気胸、睡眠時無呼吸症候群、在宅酸素療法
11	オンデマンド	木下	内分泌疾患	内分泌腺の解剖生理学、内分泌疾患各論
12	オンデマンド	木下	腎・泌尿器疾患	腎・泌尿器の解剖生理学、腎・泌尿器疾患各論
13	オンデマンド	木下	血液疾患	骨髄・血液の解剖生理学、血液疾患各論
14	オンデマンド	木下	免疫関連疾患	免疫反応の生理学、アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全症候群
15	オンデマンド	木下	総合討議	

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	臨床内科学Ⅱ										
担当者氏名	遠藤 敏、中山 雅和										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1	人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
	DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
	DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
	DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標(GIO)》

高齢期にある対象者を的確に理解するために、老化がもたらす生理学的変化や老年者の疾患の特徴について学ぶ。理学療法へ展開するために、小児の生理・心理・疾病の特徴と小児保健に関する基本的な知識を学ぶ。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

大村耐義編：『標準理学療法学・作業療法学 老年学第4版』、医学書院、2014。
日本老年医学会編：『老年医学テキスト3版』、MEDICALVIEW、2013。

《行動目標(SBOs)》

1. 高齢者の特徴と医療・福祉政策が言える。2. 老化と加齢、老年症候群の特徴を言える。3. 高齢者の機能・生活評価の説明ができる。1. 先天異常について説明できる。2. 新生児の特徴について説明できる。3. 感染症、または予防接種の種類を列挙できる。4. 小児の発達過程を説明できる。5. 小児保健について説明できる。6. 循環器障害の種類と特徴について説明できる。

《学生の留意点》

老年の疾患でなく、高齢の生活者として考えるようにしてほしい。各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《成績評価の方法》

筆記試験100% (老年学2/3, 小児学1/3)

《実務経験のある教員による科目》

当科目は遠藤(理学療法士)と森浩輝(小児科医)が担当し、その実務経験を授業内容に活かした授業としている。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	遠藤	老年学とは	老年医学から老年学への発展
2	講義教室	遠藤	高齢化の問題	高齢社会の抱える諸問題とその対策
3	講義教室	遠藤	高齢者の生理学的特徴1	高齢者の生理学的特徴(視覚、聴覚、嗅覚、味覚、体性感覚などの感覚器)
4	講義教室	遠藤	高齢者の生理学的特徴2	高齢者の生理学的特徴(呼吸、心臓、腎臓、肝臓などの臓器)
5	講義教室	遠藤	老年症候群	老年症候群と廃用症候群
6	講義教室	遠藤	フレイルとロコモティブ・シンドローム	フレイルとロコモティブ・シンドロームの理解
7	講義教室	遠藤	高齢者の主な疾患①	高齢者における、特に重要な疾患
8	講義教室	遠藤	高齢者の主な疾患②	高齢者における、特に重要な疾患
9	講義教室	遠藤	認知症の理解	認知症特有の症状の理解
10	講義教室	遠藤	高齢者の機能・生活評価	高齢者の機能・生活評価の検査項目とテストバッテリー
11	オンデマンド	中山	小児の疾病 先天異常①	小児の疾病 先天異常①
12	オンデマンド	中山	小児の疾病 先天異常②	小児の疾病 先天異常②
13	オンデマンド	中山	小児の疾病 感染症①	小児の疾病 感染症①
14	オンデマンド	中山	小児の疾病 感染症②	小児の疾病 感染症②
15	オンデマンド	中山	小児の疾病と障害 保健	小児の疾病と障害 保健

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	社会医学										
担当者氏名	小林 規彦、堀尾 隆										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										○

《一般教育目標 (GIO)》

医療職である療法士としてプライマリヘルスケアを理解するために、社会医学の概要について考察する。

《テキスト》

『理学療法士・作業療法士のためのヘルスプロモーション』，南江堂，2023年

《参考図書》

授業内に提示する。

《行動目標 (SBOs)》

- ・社会医学の概要を説明できる。
- ・国際的な流れと国内の動きを理解できる。
- ・理学療法の関与を説明できる。

《学生の留意点》

オンデマンド形式で実施するため、理解が曖昧な箇所は複数回の視聴により充足することが望まれる。各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施しない

（＊期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

全ての回で提示する課題 100%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は、実務経験ならびに当該分野専門教育経験のある講師が担当している。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	オンデマンド	小林	コースオリエンテーション	社会医学とは プライマリヘルスケアとは
2	オンデマンド	小林	社会・環境と健康	社会・環境と健康
3	オンデマンド	小林	疫病と予防医学	疫病と予防医学
4	オンデマンド	小林	生活習慣と疾病	生活習慣と疾病
5	オンデマンド	小林	感染症対策	感染症対策
6	オンデマンド	小林	国際保健	国際保健
7	オンデマンド	堀尾	地域保健	地域保健
8	オンデマンド	堀尾	産業保健	産業保健
9	オンデマンド	堀尾	保健・医療・福祉制度	保健・医療・福祉制度
10	オンデマンド	小林	介護保険制度	介護保険制度
11	オンデマンド	小林	医の倫理と患者の人権	医の倫理と患者の人権
12	オンデマンド	堀尾	終末期医療と死の概念	終末期医療と死の概念
13	オンデマンド	堀尾	社会医学の中の理学療法Ⅰ	社会医学の中の理学療法
14	オンデマンド	堀尾	社会医学の中の理学療法Ⅱ	社会医学の中の理学療法
15	オンデマンド	小林	まとめ	全体の振り返り 理学療法への応用

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	臨床運動学										
担当者氏名	福田 崇										
授業方法	演習	単位数	2	回数	30	時間数	60	開講年次	2	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1	人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
	DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
	DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
	DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標(GIO)》

動作における問題点を抽出できるようになるために、理学療法評価における動作観察・分析の位置づけを理解し、健康者や患者の姿勢観察・分析、動作観察・分析の方法を理解する。

《テキスト》

基礎運動学 第7版 医歯薬出版 (7920円)

《参考図書》

日常生活活動の分析 身体運動学的アプローチ 第2版 南江堂 (6380円) 観察による歩行分析 医学書院 (5000円) 介護にいかすバイオメカニクス 医学書院 (4095円) PT・OTビジュアルテキスト 姿勢・動作・歩行分析 羊土社 (5000円) 脳卒中片麻痺の基本動作分析 メジカルビュー社 (5940円)
図解理学療法検査・測定ガイド 第3版 文光堂 (10,890円)

《行動目標(SBOs)》

1. 姿勢と動作の観察に必要な用語を使うことができる。
2. 基本姿勢・動作について、観察により発見した特徴を描画（図示）することができる。
3. 基本動作における活動の評価ができる。
4. 基本動作における活動と健康状態を関連付けし説明できる。
5. 基本動作における活動と心身機能・身体構造を関連付けし説明できる。

《学生の留意点》

- ・演習時は動作観察し易い服装に着替えること。
- ・講義の進捗状況によって単元が入れ替わることがあります。
- ・演習時は能動的に学習を実施し、協同学習者とともにより良い学びとなるよう努力すること。
- ・講義内外に積極的に観て、考えて、書くことが上達に繋がりますので毎回筆記具を持ってきてください。
- ・各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》
実施する

期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を姿勢や動作の観察・分析のために活かした授業としている。

《成績評価の方法》

ミニッツペーパー・小テスト40%＋筆記試験60%で評価する。
合計が60%未満の場合には筆記課題による再試験対応となる。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	実技教室	福田	動きに関する概要1	動きを考える対象と側面
2	実技教室	福田	動きに関する概要2	動きの研究、理学療法士にとっての動き
3	実技教室	福田	動きの評価1	動きの評価
4	実技教室	福田	動きの評価2	動きを評価する視点と基準
5	実技教室	福田	動きの評価3	理学療法士が動きを評価する視点
6	実技教室	福田	動きの評価4	理学療法士が動きを評価する基準
7	実技教室	福田	臥位動作のメカニズム1	臥位動作における身体運動
8	実技教室	福田	臥位動作のメカニズム2	臥位動作に必要な身体構造と心身機能
9	実技教室	福田	臥位動作の評価1	臥位動作の日常生活動作の評価
10	実技教室	福田	臥位動作の評価2	臥位動作の異常動作の評価
11	実技教室	福田	臥位動作の評価3	臥位動作の運動学的評価
12	実技教室	福田	臥位動作の評価4	臥位動作の評価まとめ
13	実技教室	福田	座位動作のメカニズム1	座位動作における身体運動
14	実技教室	福田	座位動作のメカニズム2	座位動作に必要な身体構造と心身機能
15	実技教室	福田	座位動作の評価1	座位動作の日常生活動作の評価
16	実技教室	福田	座位動作の評価2	座位動作の異常動作の評価
17	実技教室	福田	座位動作の評価3	座位動作の運動学的評価
18	実技教室	福田	座位動作の評価4	座位動作の評価まとめ
19	実技教室	福田	立位動作のメカニズム1	立位動作における身体運動
20	実技教室	福田	立位動作のメカニズム2	立位動作に必要な身体構造と心身機能
21	実技教室	福田	立位動作の評価1	立位動作の日常生活動作の評価
22	実技教室	福田	立位動作の評価2	立位動作の異常動作の評価
23	実技教室	福田	立位動作の評価3	立位動作の運動学的評価
24	実技教室	福田	立位動作の評価4	立位動作の評価まとめ
25	実技教室	福田	移動動作のメカニズム1	移動動作（歩行、走行）における身体運動
26	実技教室	福田	移動動作のメカニズム2	移動動作（歩行、走行）に必要な身体構造と心身機能
27	実技教室	福田	歩行の評価1	歩行の日常生活動作の評価
28	実技教室	福田	歩行の評価2	歩行の異常動作の評価
29	実技教室	福田	歩行の評価3	歩行の運動学的評価
30	実技教室	福田	歩行の評価4	歩行の評価まとめ

《専門分野 基礎理学療法学》

科目名	理学療法演習Ⅱ										
担当者氏名	山形 哲行、坂田 晋一										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1	人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
	DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
	DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
	DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標(GIO)》

臨床実習Ⅰ（地域リハビリテーション見学と検査測定実習）の目標を達成するために演習を実施する。情意面では、実践的なコミュニケーションスキルを身につける。知識面では、地域包括ケアシステムを概観し、介護保険法について理解する。技術面では基本的な検査測定技術を振り返り、身につける。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

特に指定しない。

《行動目標(SBOs)》

1. 臨床実習Ⅰ（地域リハビリテーション見学と検査測定実習）の目的を説明できる。
2. 介護保険法、地域包括ケアシステムを理解できる。
3. 適切な挨拶、報告-連絡-相談を行いコミュニケーションを取ることができる
4. 基本的な検査測定項目を列挙し、疾患を想定して評価手順を組み立て、適切な時間内で、一連の流れで実施する。
5. 検査測定結果についての記録をSOAPを用いて実施できる。

《学生の留意点》

検査測定技術については評価学で学んだ内容を復習し、さらなる技術向上に努めること。演習では実習同様の身だしなみで臨むこと。ロールプレイでは医療従事者としての自覚を持って積極的に取り組み、疾患-障害を持たれた方を模した健常者を相手に、時間内に適切な手技が行えるまで到達することで、対象者に対して適切な手技が行えるよう準備する。

各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かした内容になっている。

《期末試験実施について》

実施しない

（※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

実技課題60%，提出課題40%。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	坂田/山形	地域リハビリテーションについて	介護保険法、地域包括ケアシステム
2	実技教室	坂田/山形	検査測定技術	オリエンテーション、バイタルサイン、基本動作介助、検査測定について実習までの到達度
3	実技教室	坂田/山形	検査測定技術	基本動作介助、バイタルサイン
4	実技教室	坂田/山形	検査測定技術	検査測定技術の復習
5	講義教室	坂田/山形	実習オリエンテーション	「経験症例の記録（カルテ）」の書き方 ～SOAPとは～、ファイリングについて
6	実技教室	坂田/山形	検査測定技術	検査測定技術の復習
7	講義教室	坂田/山形	臨床実習ポートフォリオ	「臨床実習Ⅰのまとめ」の書き方 ～結果の解釈について～
8	実技教室	坂田/山形	検査測定技術	検査測定技術の復習
9	実技教室	坂田/山形	検査測定技術	検査測定技術の復習
10	実技教室	坂田/山形	検査測定技術	検査測定技術の復習
11	実技教室	坂田/山形	理学療法検査測定技術の確認（実技課題）	検査測定技術の確認
12	実技教室	坂田/山形	理学療法検査測定技術の確認（実技課題）	検査測定技術の確認
13	実技教室	坂田/山形	理学療法検査測定技術（実技課題）のフィードバック	検査測定技術のフィードバック
14	実技教室	坂田/山形	理学療法検査測定技術（実技課題）のフィードバック	検査測定技術のフィードバック
15	講義教室	坂田/山形	実習オリエンテーション	臨床実習Ⅰの目的、臨床実習ガイド読み合わせ、体調不良時の対応など

《専門分野 基礎理学療法学》

科目名	理学療法演習Ⅲ										
担当者氏名	山形 哲行、坂田 晋一										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1	人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
	DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
	DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
	DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標(GIO)》

臨床実習Ⅱ（評価実習）の目標を達成するために、コミュニケーションスキル等の情意領域、基本動作介助、検査測定技術や臨床推論についての振り返りを行う。また、臨床実習Ⅱについて振り返り、各々の課題を見つけることができ、臨床実習Ⅲまでに学修すべき内容と学修プランを挙げられる。

《テキスト》

特に指定なし

《参考図書》

特に指定なし

《行動目標(SBOs)》

1. 臨床実習Ⅱ（評価実習）の目的を説明できる。
2. 適切な挨拶、報告-連絡-相談を行いコミュニケーションを取ることができる
3. 基本的な検査測定項目を列挙し、疾患を想定して評価手順を組み立て、適切な時間内で、一連の流れで実施する。
4. 検査測定結果の記録をとり、臨床思考過程を進め、解釈や統合が実施できる。
5. 動作観察と分析が実施できる。

《学生の留意点》

講義・実技に関わらず、実習同様の身だしなみで臨むこと。評価実習に向けての演習となるため、検査・測定方法の予習・復習を必ず行うこと。また、臨床推論学修に必要な基礎科目も適宜確認・復習することが望ましい。各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施しない

（※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

実技課題50%、提出課題50%。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かした内容になっている。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	坂田/山形	理学療法プロセス（臨床思考過程）	臨床思考過程における情報収集について
2	実技教室	坂田/山形	理学療法プロセス（臨床思考過程）	臨床思考過程における検査測定について オリエンテーション、バイタルサイン、基本動作介助、検査測定について実習までの到達度
3	講義教室	坂田/山形	臨床実習ポートフォリオ	「経験症例の記録（カルテ）」の書き方 ～SOAPを深める～
4	実技教室	坂田/山形	検査測定技術	検査測定技術の復習
5	講義教室	坂田/山形	臨床実習ポートフォリオ	「経験症例のまとめ」の書き方 ～動作と機能の関連性～
6	実技教室	坂田/山形	検査測定技術	検査測定技術の復習
7	講義教室	坂田/山形	理学療法プロセス（臨床思考過程）	問題点抽出/目標設定/プログラム立案
8	実技教室	坂田/山形	検査測定技術	検査測定技術の復習
9	講義教室	坂田/山形	理学療法プロセス（臨床思考過程）	問題点抽出/目標設定/プログラム立案
10	実技教室	坂田/山形	検査測定技術	検査測定技術の復習
11	実技教室	坂田/山形	理学療法検査測定技術の確認（実技課題）	検査測定技術の確認とフィードバック
12	実技教室	坂田/山形	理学療法検査測定技術の確認（実技課題）	検査測定技術の確認とフィードバック
13	実技教室	坂田/山形	理学療法検査測定技術（実技課題）のフィードバック	検査測定技術のフィードバック
14	講義教室	坂田/山形	理学療法プロセス（臨床思考過程）	臨床実習報告会予行演習「経験症例のまとめ」の発表
15	講義教室	坂田/山形	実習オリエンテーション	臨床実習Ⅱの目的、臨床実習ガイド読み合わせ、体調不良時の対応など

《専門分野 理学療法評価学》

科目名	理学療法評価学Ⅱa										
担当者氏名	藤川 明代										
授業方法	実技	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

神経学的検査を実施するために、その意義・メカニズムを理解し、方法を実施できる。

《テキスト》

松澤正：『理学療法評価学 改訂第6版』：金原出版：2021.

《参考図書》

- 田崎義昭 他著：『ベッドサイドの神経の診かた 改訂17版』：南山堂：2016.
- 医療情報科学研究所：『病気がみえるvol.7 脳・神経 第2版』：メディックメディア：2017.
- 鈴木則宏編：『神経診察クローズアップ』：MEDICAL VIEW

《行動目標(SBOs)》

- 各検査の定義・目的・原則を説明できる。
- 各検査の適切なオリエンテーションができる。
- 結果の記録方法、測定機器を説明、使用できる。
- 検査時に適切な肢位にさせ、適切な抵抗・刺激を与えられる。

《学生の留意点》

- 解剖学・運動学の知識が前提となるので十分に復習をしてください。
- 実技は動きやすい服装(触診が可能のようにTシャツ・短パン)に着替えてください。
- 数多くの経験をするために、実技では様々な人と練習を行ってください。
- 各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《成績評価の方法》

実技試験(50点)、筆記試験(50点)にて評価する。下記に1つでも該当する場合、再試験を課す。

①実技試験得点率60%未満、②筆記試験得点率60%未満、③合計得点60点未満。
なお、本科目は臨床実践能力の習得に加え、基礎知識に基づいて判断する知識の習熟も重視しているため、再試験は筆記試験・実技試験ともに実施する。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	藤川	総論	神経学的検査とは 麻痺の分類 中枢神経・末梢神経
2	講義教室	藤川	意識障害 疼痛	意識障害の診かた 疼痛の診かた
3	講義教室	藤川	感覚検査	感覚検査の意義
4	実技教室	藤川	感覚検査	感覚検査の意義 疼痛検査の意義
5	実技教室	藤川	感覚検査	感覚検査の実技(触覚・痛覚)
6	実技教室	藤川	感覚検査	感覚検査の実技(触覚・痛覚)
7	実技教室	藤川	感覚検査	感覚検査の実技(温度覚・深部覚・二点識別覚・足底触圧覚)
8	実技教室	藤川	感覚検査	感覚検査の実技(温度覚・深部覚・二点識別覚・足底触圧覚)
9	講義教室	藤川	反射検査	反射理論・反射検査の意義と方法
10	実技教室	藤川	反射検査	反射理論・反射検査の意義と方法
11	実技教室	藤川	反射検査	反射検査実技
12	実技教室	藤川	反射検査	反射検査実技
13	実技教室	藤川	運動器系の診かた	筋の診かた
14	実技教室	藤川	運動器系の診かた	筋緊張 筋委縮実技
15	実技教室	藤川	運動器系の診かた	筋緊張 筋委縮実技

《専門分野 理学療法評価学》

科目名	理学療法評価学Ⅱb										
担当者氏名	中山 雅和										
授業方法	実技	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1	人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
	DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
	DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
	DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標 (GIO)》

神経学的検査を実施するために、その意義・メカニズムを理解し、方法を実施できる。

《テキスト》

松澤正：『理学療法評価学 改訂第6版』：金原出版株式会社。

《参考図書》

- 田崎義昭 他著：『ベッドサイドの神経の診かた 改訂17版』：南山堂：2016.
- 医療情報科学研究所：『病気がみえるvol.7 脳・神経 第2版』：メディックメディア：2017.
- 鈴木則宏編：『神経診察クローズアップ』：MEDICAL VIEW.

《行動目標 (SBOs)》

1. 各検査の定義・目的・原則を説明できる。2. 各検査の適切なリメンションを実施し、一般的な測定手順、注意点、リスクを説明できる。3. 検査結果の記録方法、測定器具の使用方法を説明、使用できる。4. 各神経学的検査と障害・疾患の関係、神経解剖・生理学的背景を説明できる。5. 検査時、適切な肢位にて、適切な抵抗/刺激を与えることができる。

《学生の留意点》

- 解剖学・運動学・生理学の知識が前提となるので十分復習しておくこと。
- 実技はケースーに着替え、ゴーグルを着用すること。
- 爪、髪型など専門職に適した身だしなみとすること。
- 各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

（※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

実技試験 (50点)、筆記試験 (50点) にて評価する。下記に1つでも該当する場合、再試験を課す。

①実技試験得点率60%未満、②筆記試験得点率60%未満、③合計得点60点未満。

なお、本科目は臨床実践能力の習得に加え、基礎知識に基づいて判断する知識の習熟も重視しているため、再試験は筆記試験・実技試験ともに実施する。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	中山	総論	コースオリエンテーション、評価の意義、目的
2	実技教室	中山	片麻痺機能検査①	片麻痺機能検査とは、方法と手順
3	実技教室	中山	片麻痺機能検査②	片麻痺機能検査
4	実技教室	中山	脳神経検査①	脳神経検査とは、方法と手順
5	実技教室	中山	脳神経検査②	脳神経検査の方法と手順
6	実技教室	中山	脳神経検査③	脳神経検査とは、方法と手順
7	実技教室	中山	脳神経検査④	脳神経検査の方法と手順
8	実技教室	中山	姿勢反射・バランス検査①	姿勢反射検査とは、バランスの定義
9	実技教室	中山	姿勢反射・バランス検査②	姿勢反射・バランス検査
10	実技教室	中山	協調性検査①	協調性検査とは、方法と手順
11	実技教室	中山	協調性検査②	協調性検査とは、方法と手順
12	講義教室	中山	高次脳機能障害①	認知症検査とは、方法と手順
13	講義教室	中山	高次脳機能障害②	失語症検査とは、方法と手順
14	実技教室	中山	症例検討①	症例検討 演習
15	実技教室	中山	症例検討②	症例検討 演習 まとめ

《専門分野 理学療法評価学》

科目名	理学療法評価学Ⅲ										
担当者氏名	森田 浩章										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

妥当な理学療法評価を実施するために、画像情報や臨床検査情報の結果を理解する。

《テキスト》

石川朗編：『15分チャート リハビリテーションテキスト 画像評価学』中山書店 2024

《参考図書》

水間正澄/川手信行：『リハビリテーション医療に活かす画像のみかた』南江堂 2019.
宮越浩一編：『画像評価』。医学書院。2021. 高
木康他編：『標準臨床検査医学』第4版。医学書院 2013.
美津島隆他監修：『リハスタッフのためのイチからわかる臨床検査活用術』。メディカルビュー社 2018.

《行動目標(SBOs)》

1. 画像情報の正常と異常所見が判別できる。
2. 血液学的/生化学検査の基準値と異常値が判別でき、異常の原因を説明できる。
3. 生体機能検査の基準値と異常値が判別でき、異常の原因を説明できる。

《学生の留意点》

安全な理学療法を遂行する上で必須の情報である画像、血液検査、生理検査を理解することは、病態の理解や理学療法の効果判定に欠かせません。解剖学、生理学、病理学、臨床医学の復習をしながら、学修をすすめてください。各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《成績評価の方法》

期末筆記試験100%

60%未満の場合は再試験を課す。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	森田	総論	理学療法評価のふりかえり、画像情報/臨床検査の概要、理学療法評価における画像情報/臨床検査の意義
2	講義教室	沼尾	中枢神経系画像情報①	脳画像の基本的見方
3	講義教室	沼尾	中枢神経系画像情報②	脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、硬膜下・硬膜外出血 正常圧水頭症、脳腫瘍、認知症、神経変性疾患
4	講義教室	沼尾	循環器系画像情報	心不全、大動脈瘤/大動脈解離、深部静脈血栓
5	講義教室	沼尾	呼吸器系画像情報	肺炎、慢性閉塞性肺疾患、肺がん、気胸
6	講義教室	沼尾	生体機能検査①	筋電図、基礎代謝
7	講義教室	森田	生体機能検査②	超音波検査、呼吸機能検査、心電図
8	講義教室	森田	運動器系画像情報①	脊椎
9	講義教室	森田	運動器系画像情報②	上肢
10	講義教室	森田	運動器系画像情報③	骨盤・下肢
11	講義教室	森田	血液学的検査	血球検査、血栓/止血検査
12	講義教室	森田	生化学検査	ホルモン系、肝/胆/腎/膵系、タンパク/酵素系、糖質/脂質系、電解質/血液ガス、尿、腫瘍マーカー、免疫系
13	講義教室	伊東	症例検討①	症例を通して、理学療法評価への画像情報と臨床検査情報の活用を学ぶ
14	講義教室	伊東	症例検討②	症例を通して、理学療法評価への画像情報と臨床検査情報の活用を学ぶ
15	講義教室	森田	まとめ	コース全体の「ふりかえり」と理学療法臨床推論への接続を考察する

《専門分野 理学療法評価学》

科目名	理学療法臨床推論										
担当者氏名	藤川 明代										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1	人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									○
	DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
	DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
	DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標 (GIO)》

適切な治療を提供できるようになるために、理学療法評価の位置づけや流れを理解し、症例検討を通じて理学療法評価における一連の流れ、臨床推論を理解、実践する。

《テキスト》

資料を配布する。

《参考図書》

“千住秀明監修：『理学療法学テキストⅡ 理学療法評価法第3版』。神陵文庫。2011年。
内山靖：『標準理学療法学（理学療法評価学）第2版』。医学書院。2004年。”

《行動目標 (SBOs)》

1. 評価の各項目（情報収集・問題点の抽出・目標設定・プログラム立案）について説明できる。
2. 検査測定結果に意味づけをおこなうことができる。
3. 検査測定結果や情報の統合を行い、問題点を抽出できる。
4. 目標設定・治療計画立案を行うことができる。

《学生の留意点》

各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

（※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を臨床思考能力獲得のために活かした授業としている。

《成績評価の方法》

期末試験(60%)、レポート課題(40%)

再試験要件 期末試験(60%)と課題(40%)の合計100点のうち合計60点未満の者は再試験とする。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	藤川	理学療法評価・臨床推論とは	臨床推論オリエンテーション／理学療法プロセス（一連の流れ）を理解する
2	講義教室	藤川	各種情報と情報収集	各種情報について理解し、情報収集の方法を知る
3	講義教室	藤川	模擬症例の想定	各種情報を踏まえ、模擬症例を想定する
4	講義教室	藤川	医学的情報からわかること	医学的情報の解釈
5	講義教室	藤川	検査結果からわかること①	理学療法評価結果の解釈 ～機能障害～
6	講義教室	藤川	検査結果からわかること②	理学療法評価結果の解釈 ～動作～
7	講義教室	藤川	検査結果からわかること③	理学療法評価結果の解釈 ～検査間のつながりを意識する～
8	講義教室	藤川	問題点抽出の方法	問題点抽出の方法を学ぶ/ICFの利用について
9	講義教室	藤川	問題点抽出の実際①	関連図を利用して問題点を整理する
10	講義教室	藤川	問題点抽出の実際②	統合と解釈の文章化の方法
11	講義教室	藤川	目標設定・プログラム立案の方法	目標設定、プログラム立案の方法
12	講義教室	藤川	目標設定・プログラム立案の実際	目標設定、プログラム立案を実施する
13	講義教室	藤川	考察・レジюме	考察の書き方について/レジюмеの作成方法について
14	講義教室	藤川	症例報告会①	症例報告会の方法/レジюме作成・症例報告会の準備
15	講義教室	藤川	症例報告会②	症例報告会の実施

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	運動療法学										
担当者氏名	中村 壮太、佐々木 亮平										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

各理学療法治療学を発展させるために、理学療法の主要な治療法である運動療法を習得する。

《テキスト》

特に指定なし。

《参考図書》

市橋則明編集：『運動療法学～障害別アプローチの理論と実際～第2版』．文光堂．2018.
奈良勲：関節可動域．運動と医学の出版社．2023.

《行動目標(SBOs)》

1. 運動療法の効果を上げることができ、中止基準を説明できる。
2. 各種ストレッチングを実践できる。
3. 原理原則に沿った筋力増強練習を実践できる。
4. 全身持久力と局所持久力に対する運動療法を実践できる。
5. 筋緊張を落とし、リラクゼーションさせることができる。
6. 理想的なアライメントを理解し、姿勢誘導できる。
7. 運動学習を促進させるフィードバック方法を実践できる。

《学生の留意点》

理学療法治療学の1つとなる。治療に必要なことは理論と技術（実践力）。治療をする意味から始まり、どの様に治療すればよいのか、どの様に行うのかを理学療法推論します。
理論を覚える時間と、実技の時間に分れます。各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

（＊期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験40％、実技試験60％）

《実務経験のある教員による科目》

当科目は、理学療法士が担当し、その実務経験を運動療法学の知識・技術獲得のために活かした内容である。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	実技教室	佐々木	理学療法士の治療	他職種の治療、理学療法士の治療 運動療法とは何か、運動療法の中止基準
2	実技教室	中村	関節可動域低下に対する理論	関節可動域が低下するとは、関節可動域制限の定義 関節可動域練習の効果と理論
3	実技教室	中村	関節可動域低下に対する運動療法①	6大関節に対するストレッチ
4	実技教室	中村	関節可動域低下に対する運動療法②	6大関節に対するストレッチ
5	実技教室	中村	関節可動域低下に対する運動療法③	6大関節に対するストレッチ
6	実技教室	中村	筋力低下に対する理論	筋力が低下する原因 筋力増強練習の効果と理論 RMとは 筋力増強練習の原理と原則
7	実技教室	中村	筋力低下に対する運動療法①	特異性の原理と過負荷の原理を用いた筋力増強練習
8	実技教室	中村	筋力低下に対する運動療法②	特異性の原理と過負荷の原理を用いた筋力増強練習
9	実技教室	佐々木	持久力低下に対する理論①	筋持久力・局所持久力とは何か、筋持久力の診かた、筋持久力に対する運動療法
10	実技教室	佐々木	持久力低下に対する理論②	運動負荷試験体験、運動による呼吸循環動態の変化
11	実技教室	佐々木	リラクゼーション	筋弛緩の定義、筋弛緩の目的、筋弛緩の方法
12	実技教室	佐々木	姿勢調整	理想的な姿勢アライメント、姿勢障害に対する運動療法をどのように進めるか
13	実技教室	佐々木	歩行練習	歩行練習で使用する器具の紹介 跛行と歩行練習について
14	実技教室	佐々木	運動学習	運動学習の理論
15	実技教室	佐々木	運動学習	運動学習 演習

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	運動器系理学療法学										
担当者氏名	森田 浩章、坂田 晋一										
授業方法	実技	単位数	2	回数	30	時間数	60	開講年次	2	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1	人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
	DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
	DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
	DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標(GIO)》

運動器障害に対する理学療法評価および治療立案および実施するために、代表的な整形外科疾患の病態と障害に対する検査測定および治療プログラムを身につける。

《テキスト》

神野哲也：ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション、羊土社、2024。

《参考図書》

井藤栄二：標準整形外科 第15版、医学書院、2023。
S. Hoppenfeld：図解 四肢と脊椎の診察、医歯薬出版、1984。
市橋則明編：運動療法学 第2版、文光堂、2014。
病気がみえるvol.11運動器・整形外科、MEDEC MEDIA、2017

《行動目標(SBOs)》

1. 各関節の機能解剖と機能障害を踏まえた検査測定ができる。
2. 運動器障害を引き起こす代表的な整形外科疾患を説明できる。
3. 疾患名からリスク・運動器の障害・検査測定が想起できる。
4. 基本的な運動療法の方法・留意点を理解し説明できる。
5. 代表的な運動療法プログラムを想起でき、実施できる。

《学生の留意点》

基本的にKCとし、必要に応じて半袖、ハーフパンツの格好で感染対策をお願いします。以下の注意点を気を付けながら、実技を習得すること。①事前準備 ②オリエンテーション ③体調確認 ④触れ方 ⑤動かし方 ⑥動作指示 ⑦検査測定 ⑧治療 ⑨記録 ⑩結果説明 ⑪片付け
各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

《実務経験のある教員による科目》

・本科目は、森田・坂田（理学療法士）が担当し、その実務経験を授業に反映している。

《成績評価の方法》

日々試験を除き実技試験100%（最低評価2・治療1）身だしなみ不良、部位・左右間違いは0点、妥当性（触診位置、運動方向、抵抗方向、軸、ストレス量、荷重、速度）信頼性（触診、左右間違え、不適切な抵抗・運動方向、四肢の検査後の放置、ROM最終域不十分、MMT可動域確認不足、落下・転倒・転落、脱臼）等で評価。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	実技教室	森田/坂田	授業説明・総論①	整形外科（骨折・脱臼・変形性関節症）リハにおける評価・治療
2	実技教室	森田/坂田	授業説明・総論②	整形外科（骨折・脱臼・変形性関節症）リハにおける評価・治療
3	実技教室	森田/坂田	上肢各論①	肩関節の評価・治療
4	実技教室	森田/坂田	上肢各論②	肩関節の評価・治療
5	実技教室	森田/坂田	上肢各論③	肩関節の症例問題
6	実技教室	森田/坂田	上肢各論④	肩関節の症例問題
7	実技教室	森田/坂田	上肢各論⑤	肘関節の評価・治療・症例問題
8	実技教室	森田/坂田	上肢各論⑥	肘関節の評価・治療・症例問題
9	実技教室	森田/坂田	上肢各論⑦	手関節・手部の評価・治療・症例問題 末梢神経内容を含む
10	実技教室	森田/坂田	上肢各論⑧	手関節・手部の評価・治療・症例問題 末梢神経内容を含む
11	実技教室	森田/坂田	下肢各論①	股関節の評価・治療
12	実技教室	森田/坂田	下肢各論②	股関節の評価・治療
13	実技教室	森田/坂田	下肢各論③	股関節の症例問題
14	実技教室	森田/坂田	下肢各論④	股関節の症例問題
15	実技教室	森田/坂田	下肢各論⑤	膝関節の評価・治療・症例問題
16	実技教室	森田/坂田	下肢各論⑥	膝関節の評価・治療・症例問題
17	実技教室	森田/坂田	下肢各論⑦	下腿の評価・治療・症例問題
18	実技教室	森田/坂田	下肢各論⑧	下腿の評価・治療・症例問題
19	実技教室	森田/坂田	下肢各論⑨	足関節・足部の評価・治療・症例問題
20	実技教室	森田/坂田	下肢各論⑩	足関節・足部の評価・治療・症例問題
21	実技教室	森田/坂田	体幹各論①	上部脊髄の評価・治療・症例問題 末梢神経内容を含む
22	実技教室	森田/坂田	体幹各論②	上部脊髄の評価・治療・症例問題 末梢神経内容を含む
23	実技教室	森田/坂田	体幹各論③	下部脊髄の評価・治療・症例問題 末梢神経内容を含む
24	実技教室	森田/坂田	体幹各論④	下部脊髄の評価・治療・症例問題 末梢神経内容を含む
25	実技教室	森田/坂田	リウマチ各論①	関節リウマチの評価・治療・症例問題
26	実技教室	森田/坂田	リウマチ各論②	関節リウマチの評価・治療・症例問題
27	実技教室	宮田/佐藤	超音波画像診断と理学療法①	超音波画像診断装置を用いた理学療法（外部講師）
28	実技教室	宮田/佐藤	超音波画像診断と理学療法②	超音波画像診断装置を用いた理学療法（外部講師）
29	実技教室	森田/坂田	スポーツ理学療法①	スポーツ損傷・外傷に関わる理学療法（森田）※テーピング
30	実技教室	森田/坂田	スポーツ理学療法②	スポーツ損傷・外傷に関わる理学療法（森田）※テーピング

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	中枢神経系理学療法学Ⅰ										
担当者氏名	山形 哲行										
授業方法	実技	単位数	2	回数	30	時間数	60	開講年次	2	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1	人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									○
	DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									
	DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
	DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標(GIO)》

脳血管疾患の障害を理解し、その障害における評価方法についての知識・技術を習得し、基本的な介入方法を身につける

《テキスト》

理学療法学専門分野神経理学療法学第3版

《参考文献》

鈴木恒彦・紀伊克昌・真鍋清則 著：『脳卒中の臨床神経リハビリテーション』、市村出版、2016年。、梶浦一郎・紀伊克昌・鈴木恒彦 著：『脳卒中の治療・実践神経リハビリテーション』、市村出版、2012年。、Oswald Steward 著 伊藤博信他訳：『機能的神経科学』、丸善出版、2007年。、富田昌夫 訳：『Steps to Follow』、シェパード・ブライヤー東京、2005年。

《学生の留意点》

・実技についてはケースに着替え、感染対策を徹底して臨むこと。
・授業理解のために、解剖学などの基礎科目、評価学を復習すること。
・各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を臨床能力獲得と必要な知識の獲得に活かした授業としている。

《成績評価の方法》

実技試験（40%）、筆記試験（60%）

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	山形	総論	脳血管障害のリハビリテーションの考え方、脳の解剖と生理
2	講義教室	山形	総論	脳血管障害のリハビリテーションの考え方、脳の解剖と生理
3	講義教室	山形	各論	脳梗塞・脳出血・クモ膜下出血各論、脳画像の見方①
4	講義教室	山形	各論	脳梗塞・脳出血・クモ膜下出血各論、脳画像の見方②
5	実技教室	山形	脳血管障害の評価	1次的機能障害のメカニズムとその評価 評価①
6	実技教室	山形	脳血管障害の評価	評価②
7	実技教室	山形	脳血管障害の評価	評価③
8	実技教室	山形	脳血管障害の評価	評価④
9	実技教室	山形	脳血管障害の評価	評価⑤
10	実技教室	山形	各論	嚥下・二次的障害（合併症）
11	実技教室	山形	各論	高次脳機能障害①
12	実技教室	山形	各論	高次脳機能障害②
13	実技教室	山形	脳血管障害の評価	高次脳機能障害③
14	実技教室	山形	脳血管障害の評価	高次脳機能障害④
15	実技教室	山形	治療の考え方	リスク管理① 治療の考え方
16	実技教室	山形	治療の考え方	リスク管理② ポジショニング（褥瘡）
17	実技教室	山形	治療学	動作介助① ＊片麻痺症例
18	実技教室	山形	治療学	動作介助②（背臥位～座位）
19	実技教室	山形	治療学	動作介助③（座位～車椅子移乗）
20	実技教室	山形	治療学	ハンドリングの基礎
21	実技教室	山形	治療学	背臥位～座位 《姿勢評価》
22	実技教室	山形	治療学	
23	実技教室	山形	治療学	座位～立位
24	実技教室	山形	治療学	
25	実技教室	山形	治療学	立位、バランス評価
26	実技教室	山形	治療学	
27	実技教室	山形	治療学	歩行の講義、歩行の実技
28	実技教室	山形	治療学	
29	実技教室	山形	治療学	歩行実技、EBPT
30	実技教室	山形	治療学	

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	発達系理学療法学										
担当者氏名	平井 孝明										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標 (GIO)》

代表的な小児疾患における発達障害領域の対象児に理学療法を実施するために、必要な評価・治療の実際を理解する。

《テキスト》

特に指定しない

《参考図書》

特に指定しない

《行動目標 (SBOs)》

1. 小児運動発達について説明できる。
2. 小児疾患の特徴を理解できる。
3. 臨床像より評価、問題点の指摘、治療の方向を提示できる。

《学生の留意点》

適時,実技を行いますので,服装に留意してください。また,授業終了時にレポートを提出していただきます。各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《成績評価の方法》

レポート30%, 課題発表10%, 期末試験60%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を臨床思考能力獲得のために活かせる授業内容で実施します。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	実技教室	平井	オリエンテーション	オリエンテーション
2	実技教室	平井	小児理学療法	小児理学療法総論
3	実技教室	平井	小児理学療法	小児運動発達①
4	実技教室	平井	小児理学療法	小児運動発達②
5	実技教室	平井	小児理学療法	小児整形外科疾患①
6	実技教室	平井	小児理学療法	小児整形外科疾患②
7	実技教室	平井	小児理学療法	二分脊椎①
8	実技教室	平井	小児理学療法	二分脊椎②
9	実技教室	平井	小児理学療法	脳性麻痺 痙直型①
10	実技教室	平井	小児理学療法	脳性麻痺 痙直型②
11	実技教室	平井	小児理学療法	脳性麻痺 アテトーゼ型①
12	実技教室	平井	小児理学療法	脳性麻痺 アテトーゼ型②
13	実技教室	平井	小児理学療法	重症心身障害児①
14	実技教室	平井	小児理学療法	重症心身障害児②
15	実技教室	平井	小児理学療法	まとめ

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	神経筋系理学療法学										
担当者氏名	沼尾 拓、島田 英則										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標（GIO）》

神経筋系障害の対象者へ効果的な理学療法を実施するために、妥当な評価に基づいて理学療法プログラムを立案し、実施できる。

《テキスト》

なし

《参考図書》

潮見泰蔵：『PT・OTビジュアルテキスト 神経障害理学療法学 第2版』，羊土社，2024

《行動目標（SBOs）》

- ・神経筋系理学療法評価が実施できる。
- ・基本的な神経筋系理学療法プログラムを立案できる。
- ・基本的な神経筋系理学療法を実施できる。

《学生の留意点》

リハ医学・臨床神経学を復習の上、授業に臨むことを心掛ける。各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

（＊期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

筆記試験70%、実技試験30%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を臨床能力獲得と必要な知識の獲得に活かした授業としている。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	沼尾	神経障害理学療法学総論	中枢神経と末梢神経
2	講義教室	沼尾	末梢神経障害①	上肢
3	講義教室	沼尾	末梢神経障害②	下肢
4	講義教室	沼尾	ヘルニア	病態、評価と治療
5	講義教室	沼尾	脊髄損傷の基礎	脊髄損傷の病態
6	講義教室	沼尾	脊髄損傷の実際	評価と治療
7	実技教室	沼尾	治療実技	神経モビライゼーション・腹横筋トレーニング
8	講義教室	島田	Parkinson病	Parkinson病の病態
9	講義教室	島田	Parkinson病とその関連疾患	Parkinson病とその関連疾患の評価と治療
10	講義教室	島田	脊髄小脳変性症	脊髄小脳変性症の評価と治療
11	講義教室	島田	多発性硬化症	多発性硬化症の評価と治療
12	講義教室	島田	筋ジストロフィー	筋ジストロフィーの評価と治療
13	講義教室	島田	筋萎縮性側索硬化症	筋萎縮性側索硬化症の評価と治療
14	講義教室	島田	多発性筋炎、皮膚筋炎	多発性筋炎、皮膚筋炎の評価と治療
15	講義教室	島田	ギランバレー症候群、重症筋無力症	ギランバレー症候群、重症筋無力症の評価と治療

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	物理療法学Ⅱ										
担当者氏名	福田 崇										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
		DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
		DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
		DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標 (GIO)》

物理療法学Ⅰに続いて、理学療法の治療体系のひとつである物理療法を施術できるようになるために、その理論・手法を修得する。

《テキスト》

石川朗総編集：「物理療法学・実習 第2版 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト」, 中山書店, 2025.

《参考図書》

Michelle H. Cameron, 渡部一郎訳：『EBM物理療法 原著第4版』, 医歯薬出版, 2015年.
細田多穂監修：『物理療法学テキスト 改訂第3版』, 南江堂, 2021年.

《行動目標 (SBOs)》

1. 各物理療法の生理学的作用と適応を説明できる。
2. 各物理療法の禁忌と注意事項を説明できる。
3. 各物理療法を実施できる。

《学生の留意点》

各物理療法について、講義と実技を組み合わせ、理解を深める構成です。教科書を予習したうえで、動きやすい服装で参加して下さい。各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

（＊期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

小テスト40％，期末試験60％

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	福田	物理療法Ⅱ概論	オリエンテーション, 「物理療法Ⅰ」のふりかえり
2	講義教室	福田	光線療法1	赤外線
3	講義教室	福田	光線療法2	紫外線
4	講義教室	福田	光線療法3	レーザー
5	講義教室	福田	水治療法1	水治療法の理論
6	実技教室	福田	水治療法2	水治療法の演習
7	講義教室	福田	電気刺激療法1	電気刺激療法の概要
8	講義教室	福田	電気刺激療法2	治療的電気刺激
9	講義教室	福田	電気刺激療法3	経皮的末梢神経電気刺激療法
10	講義教室	福田	電気刺激療法4	干渉波電気刺激療法
11	講義教室	福田	電気刺激療法5	機能的電気刺激療法
12	講義教室	福田	振動刺激療法1	振動刺激療法概論
13	講義教室	福田	振動刺激療法2	振動刺激療法の実際
14	講義教室	福田	物理療法Ⅱまとめ1	総合演習1
15	講義教室	福田	物理療法Ⅱまとめ2	総合演習2

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	日常生活活動論										
担当者氏名	長屋 説										
授業方法	演習	単位数	2	回数	30	時間数	60	開講年次	2	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1	人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、喜びみや喜びに共感できる人									
	DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
	DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
	DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標(GIO)》

適切な日常生活活動の支援を実現させるために、理学療法の観点から無意識に行っている日常生活活動を分析・評価し、対象者それぞれの生活の質を維持・向上できるような治療技術を習得する。また、補助具の処方・指導を実施できるようになるために、目的や使用方法を理解する。

《テキスト》

奈良勲監修：『日常生活活動学・生活環境学』、医学書院、千野一他：『臨床中の機能評価-SIASとFIM「基礎編」』、医歯薬出版、2016年。※引用文献として「応用編」

《参考図書》

「伊藤利之著：『ADLとその周辺』、医学書院、2015。
大川剛雄編：『日常生活動作（活動）』、医歯薬出版、1999。」

《行動目標(SBOs)》

1. 日常生活活動の概念、範囲（移動、コミュニケーション、ADL）が説明できる。
2. 代表的なADL評価の各特徴を説明し実施できる。
3. 移動の動作分析ができる（健康者）
4. 歩行・移動補助具や車椅子の処方・指導ができる。
5. 動作の介助を標準的な方法で実施できる。
6. 代表的な疾患を介助にADL指導ができる

《学生の留意点》

各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を臨床能力獲得と必要な知識の獲得に活かした授業としている。

《成績評価の方法》

<講義と実技授業で構成されます>

筆記試験 70% 実技試験30%

<感染症対策等で制限がかかった場合>

同時双方向やオンデマンド授業になることもあります。
指定された時間内に課題を提出しないと欠席になります。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	長屋	コース・オリエンテーション	オリエンテーション・日常生活の概念・範囲/ICFによる理学療法評価
2	講義教室	長屋	ADLの概念	ADLの概念/ICFによる理学療法評価（作成）/セルフケア
3	講義教室	長屋	ADLを評価する1	できるADLとしているADL、目標とするADL/「できる」の定義
4	講義教室	長屋	ADLを評価する2	量的評価（BI）自立度を使用した日常生活活動の評価/質的評価と量的評価
5	講義教室	長屋	ADLを評価する3	量的評価（FIM）1
6	講義教室	長屋	ADLを評価する4	量的評価（FIM）2
7	講義教室	長屋	ADLを評価する5	量的評価（FIM）3
8	実技教室	長屋	移動補助具1	移動補助具の種類と適応1（車椅子）/車いすメンテナンス
9	実技教室	長屋	移動補助具2	移動補助具の種類と適応2（杖・松葉杖その他 障害物 階段）
10	実技教室	長屋	移動補助具3	移動補助具の種類と適応3（杖・松葉杖その他 障害物 階段）起き上がり/立位
11	実技教室	長屋	無意識のADLを視覚化してみる	起き上がり
12	実技教室	長屋	移乗動作介助 2人全介助	移乗・移動動作を誘導する（全介助/2人：全介助/タオル1人：起き上がり/1人）
13	実技教室	長屋	移乗動作介助 軽介助	移乗・移動動作を誘導する（軽介助）
14	実技教室	長屋	移乗動作介助 全介助	移乗・移動動作を誘導する（全介助）
15	実技教室	長屋	移乗動作介助 全介助	移乗・移動動作を誘導する（全介助）
16	実技教室	長屋	移乗動作介助 全介助	移乗・移動動作を誘導する（全介助/リスク管理）
17	実技教室	長屋	移乗動作介助 全介助	移乗・移動動作を誘導する（全介助/リスク管理）
18	実技教室	長屋	移乗動作介助 全介助	移乗・移動動作を誘導する（全介助/リスク管理）
19	実技教室	長屋	移乗動作介助 環境整備	特殊な移乗・移動介助（介助バー・すり落ち修正・T/B・リフター）
20	実技教室	長屋	移乗動作介助 環境整備	特殊な移乗・移動介助（介助バー・すり落ち修正・T/B・リフター）
21	講義教室	長屋	ADLに必要な可動域1	グループワーク1 実際にどのような角度と動作が必要なのか調べてみよう1
22	講義教室	長屋	ADLに必要な可動域2	グループワーク2 実際にどのような角度と動作が必要なのか調べてみよう1
23	講義教室	長屋	ADLに必要な可動域3	グループワーク3 実際にどのような角度と動作が必要なのか調べてみよう1
24	講義教室	長屋	ADLに必要な可動域4	グループワーク4 実際にどのような角度と動作が必要なのか調べてみよう1
25	講義教室	長屋	ADLに必要な可動域5	グループワーク5 実際にどのような角度と動作が必要なのか調べてみよう1
26	講義教室	長屋	ADLに必要な可動域6	グループワーク6 実際にどのような角度と動作が必要なのか調べてみよう1
27	講義教室	長屋	ADLに必要な可動域発表	グループ発表
28	講義教室	長屋	ADLに必要な可動域発表	グループ発表
29	実技教室	長屋	移動困難な状況とは1	移動介助の応用編（THA）
30	講義教室	長屋	移動困難な状況とは2	高齢者とADL（フレイル/ロコモティブシンドローム/認知症など）

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	義肢装具学										
担当者氏名	小林 規彦、森田 浩章										
授業方法	実技	単位数	2	回数	30	時間数	60	開講年次	2	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		DP1 人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
		DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
		DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
		DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標(GIO)》

- 対象者の障害に応じた義肢装具の活用方法を知るために、構造や適合、ならびに義肢装具使用による理学療法を理解する
- 臨床で義肢装具を活用するために、組立てや調整の技術を習得する

《テキスト》

細田多穂：『義肢装具学テキスト第4版』、南江堂、2025年。

《参考図書》

日本整形外科学会：『義肢装具のチェックポイント第9版』、医学書院、2021年

《行動目標(SBOs)》

- 義肢装具使用に至る経緯が説明できる。
- 各義肢装具の名称・パーツ・機能および適応が説明できる。

《学生の留意点》

疾患や障害に対する理解が必要。知識としての理解とともに、理学療法士の技術として修得するよう心掛け理解を深める。各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。

《実務経験のある教員による科目》

当科目担当は、臨床実務経験ならびに当該学会情報をもとに最新の知識や技術を紹介する授業としている。

《成績評価の方法》

装具：筆記試験50%
義肢：小テスト2回25% 課題レポート25%
どちらも60%に満たない場合は、それぞれ再試験となります。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	小林	義肢学	義肢装具学総論
2	講義教室	小林	"	義肢学総論①
3	講義教室	小林	"	義肢学総論②
4	講義教室	小林	"	切断者の評価②
5	講義教室	小林	"	切断者の評価①
6	講義教室	小林	"	断端管理②
7	講義教室	小林	"	断端管理①
8	講義教室	小林	"	前7回の振り返り
9	講義教室	小林	"	足部・足継手
10	講義教室	小林	"	膝継手
11	講義教室	小林	"	大腿義足
12	講義教室	小林	"	下腿義足
13	講義教室	小林	"	股・膝・サイム・足部義足
14	講義教室	小林	"	スポーツ・給付制度・その他
15	講義教室	小林	"	義足歩行
16	講義教室	小林	義肢学	前7回の振り返り まとめ
17	講義教室	森田	装具学	下肢装具 総論①
18	講義教室	森田	"	下肢装具 総論②
19	講義教室	森田	"	短下肢装具①
20	講義教室	森田	"	短下肢装具②
21	講義教室	森田	"	長下肢装具・股装具・膝装具①
22	講義教室	森田	"	長下肢装具・股装具・膝装具②
23	講義教室	森田	"	靴型装具①
24	講義教室	森田	"	靴型装具・体幹装具②
25	講義教室	森田	"	下肢装具チェックアウト①
26	講義教室	森田	"	下肢装具チェックアウト②
27	講義教室	森田	"	上肢装具①
28	講義教室	森田	"	上肢装具②
29	講義教室	森田	"	体幹装具①
30	講義教室	森田	"	体幹装具②

《専門分野 地域理学療法学》

科目名	地域理学療法学										
担当者氏名	長屋 説										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		DP1 人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
		DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
		DP3 他(多)職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
		DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標(GIO)》

理学療法士が医療機関内に留まることなく、実生活での対象者に対して支援を行うために必要な知識を修得する。また、地域包括ケアシステムが展開されている現在、理学療法領域の広がりを見据えて、介護予防・健康増進・さらには災害時支援・国際支援・行政と視野を広げた医療機関以外での多くの活動を理解する。

《行動目標(SBOs)》

①地域におけるPTの役割、および多職種連携について説明できる。②災害時や国際支援に対するPTの役割について説明できる。③健康維持・介護予防に対するPTの役割について説明できる。④緩和ケア・終末期におけるPTの役割について説明できる。⑤産業理学療法におけるPTの役割について説明できる。⑥学校保健や特別支援教育におけるPTの役割について説明できる。

《期末試験実施について》

実施しない

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《成績評価の方法》

課題100%

提出期限を過ぎた場合は採点されません。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	長屋	授業オリエンテーション	コースオリエンテーション/評価方法/授業準備について/歴史
2	講義教室	長屋	訪問における理学療法士	(長屋説：訪問看護ステーション ふれあい21 理学療法士) 訪問リハビリテーションでの理学療法士の役割
3	講義教室	長屋	産業理学療法	(長屋説：日本産業理学療法研究会 会員 理学療法士) 産業理学療法における理学療法士の役割
4	講義教室	定森	国際支援における理学療法	(定森みちる：理学療法士)～JICAでの活動について～ 国際支援における理学療法士の役割/国際支援に関わる基盤について
5	講義教室	長屋	健康維持、健康増進における理学療法士	(長屋説：八王子体操教室 理学療法士) 健康維持、健康増進における理学療法士の役割
6	実技教室	長屋	健康維持、健康増進における理学療法士2	(長屋説：八王子体操教室 理学療法士) 体力測定会(講堂)
7	講義教室	下田	災害時の理学療法	(下田栄次：湘南医療大学リハビリテーション学科【理学療法専攻】) 大規模震災時における活動支援/災害時における理学療法士の役割
8	講義教室	土井	ウィメンズヘルス メンズヘルス	(土井朋美：株式会社ここん：日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法研究会) ライフステージとQOL
9	講義教室	木下	地域とつながる理学療法士 行政との関わり	(木下敦史：株式会社フィジオサポート 理学療法士) 【地域とつながる】スポーツ専門店で働く理学療法士としての機能と役割
10	講義教室	込山	緩和ケア・終末期医療における理学療法	(込山志保子：杏雲堂病院 終末期・緩和ケア病棟)～がん患者さんのリハビリテーション～ 緩和ケアにおける理学療法士の役割/終末期医療における理学療法士の役割
11	講義教室	長屋	介護予防における理学療法士	(長屋説：JAセレサ介護予防教室 理学療法士) 介護予防における理学療法士の役割
12	講義教室	田島	介護保険サービス/介護予防の階層	(田島敬之：東京都立大学 健康福祉学部・人間健康科学研究科 准教授) 地域とは/地域理学療法/CBRの概念/1次予防/2次予防/3次予防/他
13	講義教室	田島	地域包括ケアシステム	(田島敬之：東京都立大学 健康福祉学部・人間健康科学研究科 准教授) 地域包括ケアシステム/地域ケア会議/他
14	講義教室	長屋	入所施設/通所施設の理学療法士	(長屋説：高齢者在宅支援センター 非常勤 理学療法士 ～2020年施設終了) 入所・通所施設での理学療法士の役割
15	講義教室	中山	特別支援教育における療法士の役割	(中山雅和：特別支援教育 小金井市発達支援センター 理学療法士) 特別支援教育における理学療法士の役割/特別支援教育での業務について

《テキスト》

資料を配付。

《参考図書》

- ・地域理学療法学、メジカルビュー
- ・ゴールドマスターテキスト 地域理学療法学、メジカルビュー
- ・地域理学療法学テキスト、学術研究出版
- ・最新 理学療法学講座 地域理学療法学、医歯薬出版

《学生の留意点》

各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

・今後の感染症対策の関係で、授業内容や評価方法が変更になることがあります。

・地域の中のどのような場面や方法で、理学療法士としての役割を發揮できるのか、興味や理解を深めてください。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は、医療機関外で視野の広い活動をされている理学療法士(外部講師：理学療法士)と長屋(専任教員：理学療法士)が担当し、実務経験を活かした授業としています。

《専門分野 臨床実習》

科目名	臨床実習 I										
担当者氏名	山形 哲行、坂田 晋一										
授業方法	実習	単位数	2	回数	-	時間数	90	開講年次	2	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1	人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									○
	DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
	DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									○
	DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									○

《一般教育目標 (GIO)》

臨床実習指導者の指導のもと、学内で習得した検査・測定技術を臨床の中で実施し、結果の原因分析や解釈を行う。また、地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割を学ぶ。さらに、理学療法士および医療専門職として、適切な態度や行動を養うことを目的とする。

《テキスト》

指定なし

《参考図書》

指定なし

《行動目標 (SBOs)》

1. 基本的検査手技が実施できる。2. 検査結果の解釈を述べるができる。3. 各検査間の関連性を言える。4. 起居、移乗・移動動作などの介助が行える。5. 地域リハビリテーション事業について説明できる。6. 対象者や臨床実習指導者・スタッフに対して適切な人間関係を構築することができる。7. 医療者として基本的なコミュニケーションを実践できる。8. 感染予防、医療安全、個人情報保護を実施できる。

《学生の留意点》

《期末試験実施について》

実施しない

《実務経験のある教員による科目》

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

当該分野における理学療法士が、その実務経験を活かした科目となっている。

《成績評価の方法》

最終的な単位認定は、臨床実習指導者による臨床評価と実習後セミナー、臨床実習ポートフォリオの内容を総合的に勘案して学院が決定します。評定は「合」・「否」の2段階で行います。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1				・7～8月の2週間（45h*10日間）。 ・地域リハビリテーション施設での見学（1週間）と検査測定技術の体験（1週間）を実施。
2				肢長・周径測定、ROMテスト、徒手筋力テスト、神経学的テストなどの検査測定の実施と記録を数多く実施させる。
3				実施した検査測定項目ごとに、正常から逸脱した結果を抽出させ、知識の範囲内で原因分析をさせる。
4				各検査間の関連性を考察させる。
5				標準的な方法で起居動作介助や移乗・移動動作などの介助を数多く実習させる。
6				地域リハビリテーションの現場を見学する
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

《専門分野 臨床実習》

科目名	臨床実習Ⅱ										
担当者氏名	山形 哲行、坂田 晋一										
授業方法	実習	単位数	3	回数	-	時間数	135	開講年次	2	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1	人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									○
	DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
	DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									○
	DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									○

《一般教育目標(GIO)》

診療参加型実習の中で多くの診療場面を見学、協同参加、実施しながら、理学療法プロセス（臨床思考過程）を包括的に学びます。
また、理学療法士および医療専門職として適切な態度や行動を引き続き養うことを目的としています。

《テキスト》

《参考図書》

《行動目標(SBOs)》

1. 基本的な評価手技が実施できる。2. 検査結果の解釈を述べることができる。3. 基本動作の介助が行える。4. 対象者に合った問題点抽出・目標設定・治療プログラム立案を行える。5. 対象者に対しリエンションを実施できる。6. 対象者や臨床実習指導者・スタッフに対して適切な人間関係を構築することができる。7. 感染予防、医療安全、個人情報保護を実施できる。

《学生の留意点》

《期末試験実施について》

実施しない

（※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における理学療法士が、その実務経験を活かした科目となっている。

《成績評価の方法》

最終的な単位認定は、臨床実習指導者による臨床評価と実習後セミナー、臨床実習ポートフォリオの内容を総合的に勘案して学院が決定します。評定は「合」・「否」の2段階で行います。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1				・昼間部：2年次 1～2月の3週間（45h*15日） ・診療参加型臨床実習教育。
2				・実習指導者に帯同し、業務の周辺より参加させて頂く。
3				・対象者への侵襲程度が低いレベルから、徐々に、情報収集、検査測定、臨床推論、治療プログラム立案の一連の評価過程を実習する。
4				・教育評価はOSCEを実習前に実施し、実習の成果を実習後、評価する。
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	問題解決のための研究法										
担当者氏名	小宮山 一樹、林 佑樹										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	3	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1	人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
	DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
	DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									○
	DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標 (GIO)》

研究的疑問を解決するために、臨床研究および基礎医学研究方法論を理解し、研究を実践する。

《テキスト》

対馬栄輝：最新理学療法学講座 理学療法研究法，医歯薬出版，2021年。

《参考図書》

《行動目標 (SBOs)》

- ・ 研究的疑問の明確化の方法を説明できる。
- ・ 研究計画書を作成できる。
- ・ 研究計画書をもとに研究を実施できる。
- ・ 研究発表を実施できる。

《学生の留意点》

1年次の「情報社会と情報リテラシー」の授業を基礎として進めていく授業になりますので前もって復習してから望みましょう。授業時間枠だけでは学習時間が不足しますので、課外においてもグループ学習に努めましょう。各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施しない

（＊期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

研究計画書25%，研究報告書25%，発表50%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を臨床能力獲得と必要な知識の獲得に活かした授業としている。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	林	研究とは	研究とは/研究の必要性/研究の一連の流れ（概要）/PICO・PECOについて
2	講義教室	林	研究デザイン	研究デザインの基礎知識
3	講義教室	林	文献検索1	文献検索の必要性/文献の種類
4	講義教室	林	文献検索2	文献検索の具体的方法
5	講義教室	小宮山	研究計画の立て方	研究テーマの見つけ方/研究計画書の作成/バイアスについて
6	講義教室	小宮山	倫理審査	倫理審査とは/インフォームドコンセント/個人情報保護/利益相反について
7	講義教室	小宮山	統計 1	記述統計/グラフの種類/特性値/データの尺度
8	講義教室	小宮山	統計 2	統計解析の実際
9	講義教室	林	研究1	研究計画書作成（対象者の決定，研究資源確保）
10	講義教室	林	研究2	予備実験の実施と計画修正
11	講義教室	小宮山	研究3	本実験の実施
12	講義教室	小宮山	研究4	データ処理
13	講義教室	林	研究5	研究報告書（抄録）作成
14	講義教室	林	研究6	研究発表会の準備
15	講義教室	小宮山/林	研究7	研究発表会

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	疾病管理論										
担当者氏名	中澤 恵理子、村田 恵子										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	3	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標 (GIO)》

医療職である療法士として疾病予防とその管理を理解するために、栄養学，臨床薬学，救急救命医学を学ぶ。

《テキスト》

授業の中で資料を配布する。

《参考図書》

授業の中で紹介する。

《行動目標 (SBOs)》

到達目標：1. 栄養学の基礎知識と医療現場での栄養療法の基礎を理解できる。2. 薬の概要を学び、生体内動態を理解できる。3. 上級救命講習を受講し、上級救命技能認定証を入手できる。

《学生の留意点》

理学療法業務の中で、遭遇する重要な知識、技術を扱います。短期間ですが、集中して習得してください。よく分からないことやもっと知りたいことを沢山つくり、各講師と対話をするようお願いします。なお、上級救命講習は、1～4限を終日行う集中授業で開講します。各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施しない

（＊期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

栄養学，臨床薬学，救急救命医学がそれぞれ1/3ずつ評価し、合算の上、評定をつける。

《実務経験のある教員による科目》

実務経験がある管理栄養士，薬剤師，そして救急救命士が担当する。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	中澤	栄養学①	栄養学概論（栄養とは・消化と吸収）
2	講義教室	中澤	栄養学②	栄養素の種類と機能Ⅰ（炭水化物・脂質）
3	講義教室	中澤	栄養学③	栄養素の種類と機能Ⅱ（たんぱく質）
4	講義教室	中澤	栄養学④	栄養素の種類と機能Ⅲ（ビタミン・ミネラル）
5	講義教室	中澤	栄養学⑤	栄養素の種類と機能Ⅳ（機能性成分）
6	講義教室	村田	臨床薬学①	薬とは
7	講義教室	村田	臨床薬学②	薬の分類
8	講義教室	村田	臨床薬学③	薬の生体内動態（吸収、分布）
9	講義教室	村田	臨床薬学④	薬の生体内動態（代謝、排泄）
10	講義教室	村田	臨床薬学⑤	疾患に対する薬物療法
11	実技教室	消防	救命救急医学①	上級救命講習① 心肺蘇生①
12	実技教室	消防	救命救急医学②	上級救命講習② 心肺蘇生②
13	実技教室	消防	救命救急医学③	上級救命講習③ AED①
14	実技教室	消防	救命救急医学④	上級救命講習④ AED②
15	実技教室	消防	救命救急医学⑤	上級救命講習⑤ 応急手当

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	精神医学概論										
担当者氏名	河野 達哉										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	3	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

精神疾患のある対象者を的確に理解し、理学療法へ展開するために、主な精神障害および疾病の症状、それに対する一般的な治療について学ぶ。

《テキスト》

上野 武治：『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版増補版』．医学書院．

《参考図書》

尾崎 紀夫：『標準精神医学 第9版』．医学書院．2023.
大熊 輝雄：『現代臨床精神医学改訂第12版』．金原出版株式会社．2013.

《行動目標(SBOs)》

1. 精神医学の定義と関連領域について説明できる。2. 精神障害および精神障害者に関する概念について説明できる。3. 神障害の成因と分類について説明できる。4. 精神障害の際に出現する精神症状について説明できる。5. 主な疾患についての診断と評価、治療について説明できる。6. 精神障害者が利用できる精神医療・福祉制度について説明できる。

《学生の留意点》

各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。
授業はオンデマンド形式になります。毎回の課題提出が出席確認となりますので、提出期限に遅れないように対応してください。

《期末試験実施について》

実施する

（＊期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験）70％

課題提出30％

総合して60％に満たない場合は再試験対象となる

《実務経験のある教員による科目》

当該分野におけるセラピストとしての実務の経験を、精神医学の基礎という観点から授業内容に生かした科目としている。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
			総論	精神医学とは・精神障害の成因と分類
1	オンデマンド	河野		
2	オンデマンド	河野	〃	精神機能の障害と精神症状
3	オンデマンド	河野	〃	精神障害の診断と評価
4	オンデマンド	河野	各論	脳器質性精神障害
5	オンデマンド	河野	〃	症状性精神障害・精神作用物質
6	オンデマンド	河野	〃	統合失調症（1）
7	オンデマンド	河野	〃	統合失調症（2）
8	オンデマンド	河野	〃	気分（感情）障害
9	オンデマンド	河野	〃	神経症性障害（不安症・強迫症・解離症・身体症状症他）
10	オンデマンド	河野	〃	パーソナリティ障害
11	オンデマンド	河野	〃	精神遅滞 心理的発達の障害
12	オンデマンド	河野	〃	精神遅滞 心理的発達の障害
13	オンデマンド	河野	〃	精神障害者の雇用促進と就労支援
14	オンデマンド	河野	〃	精神科保健・福祉の制度について
15	オンデマンド	河野	〃	精神障害リハビリテーション 各種治療法まとめ

《専門基礎分野 保健医療福祉とリハビリテーションの理念》

科目名	保健医療福祉連携論										
担当者氏名	小宮山 一樹										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	3	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1	人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									○
	DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
	DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
	DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標 (GIO)》

保健/医療/福祉の現場におけるチームワークの構築/目標達成のため、多職種連携とそのコンピテンシーを修得する。

《テキスト》

なし

《参考図書》

はじめてのIP・連携を学びはじめる人のためのIP入門/大嶋伸雄

《行動目標 (SBOs)》

- 1 連携の必要性について説明できる。
- 2 多職種の仕事とその専門性について説明できる。
- 3 チーム医療の中の理学療法士の専門性について説明できる。
- 4 各病期の多職種連携について説明できる。
- 5 多職種と連携し事例について最適な関わりを想定することができる。

《学生の留意点》

グループワーク中心の授業となります。主体的な授業参加が望まれます。各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施しない

《実務経験のある教員による科目》

（※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かした授業としている。

《成績評価の方法》

提出課題100%

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	小宮山	オリエンテーション、総論	保健医療福祉の今日的課題を踏まえ、関連する職種が連携する意義を学ぶ。そのうえで、理学療法士との関連を理解し、コース全体の流れ、そして到達目標を理解する。
2	講義教室	小宮山	協調性と主体性	理学療法士にとっての協調性、主体性を考える。連携の経験を共有する。
3	講義教室	小宮山	医療専門職とは	医療専門職とはどのような職業なのかを考え、理学療法士の専門性について再考する。
4	講義教室	小宮山	チームとは	「連携」の成功例を想定し、その必要性について考え、「チーム」について学ぶ。
5	講義教室	小宮山	多職種を理解する①	医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・ソーシャルワーカーなど、連携する職種の専門性について学ぶ。
6	講義教室	小宮山	多職種を理解する②	医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・ソーシャルワーカーなど、連携する職種の専門性について学ぶ。
7	講義教室	小宮山	コミュニケーションとコンフリクト	多職種連携のためのコミュニケーション業務とコンフリクトマネジメントについて学ぶ。
8	講義教室	外来講師	多職種理解と連携の実例①	多職種連携の実践例を学ぶ。
9	講義教室	外来講師	多職種理解と連携の実例②	多職種連携の実践例を学ぶ。
10	講義教室	外来講師	多職種理解と連携の実例③	多職種連携の実践例を学ぶ。
11	講義教室	小宮山	ワークショップ① 都立府中看護専門学校学生と	事例検討① 事例の把握
12	講義教室	小宮山	ワークショップ② 都立府中看護専門学校学生と	事例検討② 理学療法士と看護師の立場から、共通の支援目標を考える。
13	講義教室	小宮山	ワークショップ③ 都立府中看護専門学校学生と	事例検討③ 理学療法士と看護師の立場から、それぞれの専門的な支援方法を考える。
14	講義教室	小宮山	ワークショップ④ 都立府中看護専門学校学生と	事例検討④ 検討結果の発表。
15	講義教室	小宮山	ワークショップの振り返りとまとめ	連携の必要性、理学療法士の専門性について、振り返りを行う。

《専門分野 基礎理学療法学》

科目名	理学療法演習Ⅳ										
担当者氏名	小宮山 一樹、森田 浩章、湯浅 英慈										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	3	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1	人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									○
	DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
	DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
	DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									○

《一般教育目標(GIO)》

臨床実習Ⅲ（インターン実習）の目標を達成するために、検査測定技術、治療技術や臨床推論についての振り返りを行い、実習前までに最低限の臨床能力（知識・技術・態度）を身につける。

《テキスト》

適宜資料を配布する。

《参考図書》

適宜紹介する。

《行動目標(SBOs)》

1. 臨床実習Ⅲ（インターン実習）の目的を説明できる。
2. 基本的な「検査測定」を実施できる。
3. 基本的な「治療」を実施できる。
4. 検査測定結果の解釈や統合が実施できる。
5. 動作観察と分析が実施できる。

《学生の留意点》

臨床の場で行う実践演習であることを自覚し、主体的な学びを心がけること授業時間外の復習によってその成果が大きく左右されますので、積極的な取り組みを期待します。各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施しない

（※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を臨床能力獲得と必要な知識の獲得に活かした授業としている。

《成績評価の方法》

実技確認試験100%

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	実技教室	森田/湯浅	理学療法検査測定	基本動作介助/バイタルサイン/四肢長周径
2	実技教室	森田/湯浅	理学療法検査測定	ROMT/MMT/神経学的検査
3	実技教室	森田/湯浅	理学療法検査測定	対象者を想定し一連の流れの中で検査測定を実施
4	実技教室	森田/湯浅	治療プログラム	機能障害（関節可動域拡大/筋力増強など）
5	実技教室	森田/湯浅	治療プログラム	動作（基本動作練習/筋力増強など）
6	実技教室	森田/湯浅	治療プログラム	運動器疾患の理学療法プログラム
7	実技教室	森田/湯浅	治療プログラム	運動器疾患の理学療法プログラム
8	実技教室	森田/湯浅	治療プログラム	中枢神経疾患の理学療法プログラム
9	実技教室	森田/湯浅	治療プログラム	中枢神経疾患の理学療法プログラム
10	実技教室	森田/湯浅	治療プログラム	対象者を想定し一連の流れの中で検査測定・治療プログラムを実施
11	実技教室	森田/湯浅	臨床実習ポートフォリオ	「経験症例の記録（カルテ）」の書き方 ～SOAPを深める～
12	実技教室	森田/湯浅	臨床実習ポートフォリオ	「経験症例のまとめ」書き方 ～統合と解釈/治療の考察～
13	実技教室	森田/湯浅	理学療法検査測定・治療技術の確認（実技試験）	検査測定・治療技術の確認とフィードバック
14	実技教室	森田/湯浅	理学療法検査測定・治療技術の確認（実技試験）	検査測定・治療技術の確認とフィードバック
15	実技教室	森田/湯浅	実習オリエンテーション	臨床実習Ⅲの目的、臨床実習ガイド読み合わせ、体調不良時の対応など

《専門分野 基礎理学療法学》

科目名	理学療法演習Ⅴ										
担当者氏名	小宮山 一樹、森田 浩章、湯浅 英慈										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	3	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		DP1 人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
		DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
		DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
		DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標(GIO)》
臨床実習で具体的な事例を通じてその適応を学ぶために、必要な最低限の知識・技術
(基礎と代表的な疾患における)を身に付ける。

《テキスト》
国試の達人2024運動解剖生理学編
国試の達人2024臨床医学編

《参考図書》
PT・OT国家試験共通問題 できるもん・でたもん 「基礎医学」
PT・OT国家試験共通問題 できるもん・でたもん 「臨床医学」
国試の達人2024理学療法編

《行動目標(SBOs)》
1. 基礎医学・臨床医学・理学療法の知識を確認・説明できる
2. 基礎医学・臨床医学・理学療法の知識の臨床応用を説明できる

《学生の留意点》
基礎医学と臨床医学を理解するためのグループ学習を行い、知識の定着を確認することが繰り返されます。各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》
実施する

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《実務経験のある教員による科目》
当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を臨床能力獲得と必要な知識の獲得に活かした授業としている。

《成績評価の方法》
筆記テスト100% (小テスト11回×5%+まとめテスト45%=100%)

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	森田/湯浅	科目オリエンテーション	授業ガイダンス、学習方法を学ぶ、グループワーク (以下G.W) 開始
2	講義教室	森田/湯浅	運動解剖生理学	G.Wの実践
3	講義教室	森田/湯浅	運動解剖生理学	小テスト①骨、関節、靱帯、筋、上肢の運動学
4	講義教室	森田/湯浅	運動解剖生理学	G.W骨、関節、靱帯、筋、上肢の運動学
5	講義教室	森田/湯浅	運動解剖生理学	小テスト②下肢の運動学、顔面と体幹、姿勢、歩行、バイオメカニクス、運動学習
6	講義教室	森田/湯浅	運動解剖生理学	小テスト③神経
7	講義教室	森田/湯浅	運動解剖生理学	小テスト④循環器、呼吸器
8	講義教室	森田/湯浅	運動解剖生理学	小テスト⑤消化と吸収、泌尿器と生殖器、代謝 (運動エネルギー)
9	講義教室	森田/湯浅	運動解剖生理学	小テスト⑥感覚と受容器、ホルモン、発生と組織、人間発達
10	講義教室	森田/湯浅	臨床医学	小テスト⑦医学概論、病理学概論、臨床医学総論、リハビリテーション医学
11	講義教室	森田/湯浅	臨床医学	小テスト⑧臨床心理学、骨関節障害、臨床心理学
12	講義教室	森田/湯浅	臨床医学	小テスト⑨精神障害
13	講義教室	森田/湯浅	臨床医学	小テスト⑩中枢神経の障害、末梢神経・筋の障害
14	講義教室	森田/湯浅	臨床医学	小テスト⑪小児、内部障害、がん、老年期障害、保健医療福祉、リハビリテーション概論
15	講義教室	森田/湯浅	臨床医学	G.W小児・内部障害・がん・老年期障害・保健医療福祉・リハビリテーション概論

《専門分野 理学療法管理学》

科目名	理学療法管理学										
担当者氏名	小宮山 一樹										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	3	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標 (GIO)》

社会から求められる理学療法を提供し続けるために、理学療法士として職場管理において求められる管理業務や理学療法士教育の基本について学ぶ。

《テキスト》

なし

《参考図書》

斎藤秀之，能登真一編集「リハビリテーション管理学」，医学書院2020年。
斎藤昭彦，下田信明編集「リハビリテーション管理学」，羊土社2020年。

《行動目標 (SBOs)》

1. 管理学の定義や位置づけを説明できる。
2. 働きやすい職場，働きがいのある職場について説明できる。
3. セルフマネジメントの重要性について説明できる。
4. リスクマネジメントについて説明できる。
5. 管理職の業務について説明できる。
6. 動機付け理論について説明できる。

7. 目指すベ

《学生の留意点》

理学療法士を業として生活するために、また組織として理学療法士が社会に貢献するために、必要な知識を学ぶ科目です。各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施しない

（＊期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

確認テスト40％・提出課題60％ 合計で60％に満たない場合は再試験対象とする。

《実務経験のある教員による科目》

本科目は理学療法士が担当し、その実務経験から臨床現場に即した授業を展開します。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	小宮山	管理学とは	管理学を学ぶ意味 管理学とは 運営とは 組織とは
2	講義教室	小宮山	理想の職場	働きやすい、働きがいのある職場とは。
3	講義教室	小宮山	セルフマネジメント	セルフマネジメントの重要性と方法を学ぶ。
4	講義教室	小宮山	リスクマネジメント	リスクマネジメントとKYTトレーニング演習。
5	講義教室	小宮山	理想の上司	管理職の業務について学ぶ。理想の上司像とは。
6	講義教室	小宮山	組織マネジメント	病院組織，理学療法士組織のマネジメントについて学ぶ。
7	講義教室	小宮山	オーナーシップと動機付け	オーナーシップを育むには。 動機付け理論について学ぶ。
8	講義教室	小宮山	知識のまとめ①	管理学に関する国家試験研究。グループワークと個人課題。
9	講義教室	小宮山	知識のまとめ②	管理学に関する国家試験研究。個人課題の共有。
10	講義教室	小宮山	知識のまとめ③	確認テストとフィードバック
11	講義教室	朝日	管理の実際①	国立病院機構における理学療法管理者の実際。
12	講義教室	朝日	管理の実際②	国立病院機構における理学療法管理者の実際。
13	講義教室	小宮山	ワーク① 理想の職場を創ろう	理学療法室の立ち上げシュミレーション演習
14	講義教室	小宮山	ワーク② 理想の職場を創ろう	理学療法室の立ち上げシュミレーション演習
15	講義教室	小宮山	ワーク③ 理想の職場を創ろう	発表

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	中枢神経系理学療法学Ⅱ										
担当者氏名	山形 哲行										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	3	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他(多)職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

脳血管障害患者に対して理学療法を実施できるようになるために基礎的な治療技術を習得する。

《テキスト》

なし

《参考図書》

随時紹介していく。

《行動目標(SBOs)》

1. 姿勢・動作改善のためのハンドリングが実施できる。
2. 脳血管障害患者に対する評価から治療手段の選択までの一連の流れを組み立てる事ができる。
3. 脳血管障害患者のADL改善のための治療手段を選択できる。
4. 脳血管障害患者に対して、理学療法治療計画を立案し、一部を実施できる。

《学生の留意点》

- *患者を想定し、動作の誘導方法を身に付けて欲しい。
- *実技についてはジャージ・Tシャツ等で臨むこと。
- *より多くの学生と実技を行うこと。
- *各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

(※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。)

《成績評価の方法》

実技課題(40%)、筆記試験(60%)

《実務経験のある教員による科目》

当科目は山形哲行(理学療法士)が担当し、その実務経験を臨床能力獲得と必要な知識の獲得に活かした授業としている。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	実技教室	山形	治療学総論①	脳血管障害患者の理学療法に必要な神経機構、治療戦略、ハンドリングの基本
2	実技教室	山形	治療学各論①	脳血管障害患者の理学療法評価
3	実技教室	山形	治療学各論②	ハンドリング：寝返り～起き上がり①
4	実技教室	山形	治療学各論③	ハンドリング：寝返り～起き上がり②
5	実技教室	山形	治療学各論④	ハンドリング：座位～立ち上がり①
6	実技教室	山形	治療学各論⑤	ハンドリング：座位～立ち上がり②
7	実技教室	山形	治療学各論⑥	バランス反応の再教育(座位バランス)
8	実技教室	山形	治療学各論⑦	バランス反応の再教育(立位バランス)
9	実技教室	山形	歩行の神経機構	歩行の神経学的背景について
10	実技教室	山形	治療学各論⑧	ハンドリング：歩行
11	実技教室	山形	治療学各論⑨	脳血管障害における失調症の治療
12	実技教室	山形	治療学各論⑩	半側空間無視の評価と治療
13	実技教室	山形	治療学各論⑪	片麻痺の上肢の評価と治療
14	実技教室	山形	症例検討	脳血管障害患者の模擬症例検討
15	実技教室	山形	症例検討	脳血管障害患者の模擬症例検討

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	日常生活活動論演習										
担当者氏名	中山 雅和										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	3	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標 (GIO)》

理学療法的視点から各疾患の特性を理解し、対象者の日常生活活動を的確に評価できるようになるために、それぞれの個性・多様性を踏まえたADL指導を習得する。

《テキスト》

なし

《参考図書》

奈良塾監修：標準理学療法学専門分野『日常生活活動学・生活環境学第4版』医学書院 2012
伊藤利之著：ADLとその周辺 第3版 医学書院2015

《行動目標 (SBOs)》

1. 疾患の特性に応じたADLの特徴、基本動作の方法、リスクを述べることができる。
2. 疾患の特性に応じたADLの評価を実施することができる。
3. 対象者の基本動作を力学的視点で分析することができる。
4. 対象者個人にあわせたADL（環境を含む）指導ができる。
5. 疾患の特性を理解した上で、適切な援助方法を（本人及び支援者に）提示できる。

《学生の留意点》

各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。
実技の際は動きやすい服装で参加すること。ジーパンやスカートは不可。

《期末試験実施について》

実施する

（※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

筆記試験70% 実技試験30%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を臨床能力獲得と必要な知識の獲得に活かした授業としている。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	中山	疾患別各論	【脳血管障害の特性を理解する】①
2	講義教室	中山	疾患別各論	【脳血管障害の特性を理解する】②
3	実技教室	中山	疾患別各論	【脳血管障害のADL指導】①
4	実技教室	中山	疾患別各論	【脳血管障害のADL指導】②
5	実技教室	中山	疾患別各論	【脳血管障害のADL指導】③
6	実技教室	中山	疾患別各論	【脳血管障害のADL指導】④
7	実技教室	中山	疾患別各論	【脳血管障害のADL指導】⑤
8	実技教室	中山	疾患別各論	【脳血管障害のADL指導】⑥
9	講義教室	中山	疾患別各論	【関節リウマチの疾患特性とADLの実践】①
10	実技教室	中山	疾患別各論	【関節リウマチの疾患特性とADLの実践】②
11	実技教室	岩谷	疾患別各論	【臥位の対応と移乗】①
12	実技教室	岩谷	疾患別各論	【臥位の対応と移乗】②
13	実技教室	岩谷	疾患別各論	【シーティング】①
14	実技教室	岩谷	疾患別各論	【シーティング】②
15	講義教室	中山	疾患別各論	【高齢者の特性とADL指導】

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	義肢装具学演習										
担当者氏名	小林 規彦、森田 浩章										
授業方法	実技	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	3	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		DP1	人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人								
		DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人								○
		DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人								
		DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人								

《一般教育目標 (GIO)》

- 義肢装具を使用した理学療法を理解するために、模擬体験を通し知識・技術を身に付ける。
- 義肢装具の材料や機能を理解するために、模擬的な制作過程を実施する。

《テキスト》

細田多穂：『義肢装具学テキスト第4版』，南江堂，2025年。

《参考図書》

日本整形外科学会：『義肢装具のチェックポイント第9版』，医学書院，2021年

《行動目標 (SBOs)》

- 義肢装具使用時における諸問題を説明できる。
- 各義肢装具の選択・チェックアウトができる。

《学生の留意点》

理学療法における治療法の1つとして装具を用いることができるように知識だけでなく、装着しながら慣れる。
同様に、義肢装着者に対する理学療法全般を経験とともに知識や技術を定着するよう取り組む。

《期末試験実施について》

実施しない

各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

（＊期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

装具：授業内課題 35% + 筆記試験 65%
義肢：課題 3 題 50%
どちらも60%に満たない場合は、それぞれ再試験となります。

《実務経験のある教員による科目》

当科目担当は、臨床実務経験ならびに当該学会情報をもとに最新の知識や技術を紹介する授業としている。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	小林	義肢学	断端管理法
2	講義教室	小林	義肢学	大腿義足ソケットの特徴②
3	講義教室	小林	義肢学	大腿義足ソケットの特徴①
4	講義教室	小林	義肢学	下腿義足・大腿義足歩行
5	講義教室	小林	義肢学	下腿義足・大腿義足の異常歩行
6	講義教室	小林	義肢学	下腿義足・大腿義足のアライメント
7	講義教室	小林	義肢学	義手の構造・理学療法の流れ・ADL
8	講義教室	森田	装具学	オリエンテーション 装具の調整
9	講義教室	森田	装具学	装具の理解①
10	講義教室	森田	装具学	装具の理解②
11	講義教室	森田	装具学	下肢装具のチェックアウト実技①
12	講義教室	森田	装具学	下肢装具のチェックアウト実技② 金属支柱付き短下肢装具の製作過程
13	講義教室	森田	装具学	プラスチック短下肢装具の製作過程 採型実技①
14	講義教室	森田	装具学	プラスチック短下肢装具の製作過程 採型実技②
15	講義教室	森田	装具まとめ	まとめテスト

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	内部系理学療法										
担当者氏名	林 佑樹, 武市 尚也										
授業方法	演習	単位数	2	回数	30	時間数	60	開講年次	3	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										○
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

循環器系・呼吸器系・代謝系を中心とする内部疾患を有する対象者の理学療法評価と治療を実施するために、それらの病態・疾患特性を理解したうえで、各理学療法を修得すること。

《テキスト》

高橋哲也編：『最新理学療法学講座 内部疾患理学療法学 第2版』。医歯薬出版。2026年。

《参考図書》

心臓リハビリテーション必修-指導士認定試験準拠-。日本心臓リハビリテーション学会 2011。
千住他監修：『呼吸理学療法標準手技』。医学書院 2008。

《行動目標(SBOs)》

1. 内部疾患対象者の病態・疾患特性を説明できる。
2. 内部疾患対象者の理学療法評価が実施できる。
3. 臨床検査結果・理学療法評価結果を解釈し、根拠を基に対応を判断できる。
4. 内部疾患理学療法を立案できる。
5. 呼吸理学療法手技を実施できる。

《学生の留意点》

臨床医学の中核をなす内部疾患系疾患を理解することは、他のリハビリテーション適応疾患や障害に対する理学療法を発展させる基礎になります。重要な項目を授業で取り上げ、主体的に学修することを求めます。各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施する

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。

《成績評価の方法》

筆記試験70%、実技試験30%の合計で60%未満の場合は再試験を課す。
筆記試験はA4用紙1枚手書きの資料のみ持ち込み可とする。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	林	呼吸機能障害と理学療法	呼吸器の解剖生理学、血液ガスの解釈
2	講義教室	林	呼吸機能障害と理学療法	呼吸器の解剖生理学、血液ガスの解釈
3	実技教室	林	呼吸機能障害と理学療法	呼吸機能評価：フィジカルアセスメント、スパイロメトリー、フローボリューム曲線
4	実技教室	林	呼吸機能障害と理学療法	呼吸機能評価：フィジカルアセスメント、スパイロメトリー、フローボリューム曲線
5	講義教室	林	呼吸機能障害と理学療法	呼吸器不全の病態、呼吸器疾患：慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎、誤嚥性肺炎
6	講義教室	林	呼吸機能障害と理学療法	呼吸器不全の病態、呼吸器疾患：慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎、誤嚥性肺炎
7	実技教室	林	呼吸機能障害と理学療法	急性呼吸不全・慢性呼吸不全：人工呼吸器、酸素療法
8	実技教室	林	呼吸機能障害と理学療法	急性呼吸不全・慢性呼吸不全：人工呼吸器、酸素療法
9	実技教室	林	呼吸機能障害と理学療法	呼吸リハビリテーション：コンディショニング、呼吸介助法、排痰手技
10	講義教室	林	呼吸機能障害と理学療法	呼吸リハビリテーション：コンディショニング、呼吸介助法、排痰手技
11	講義教室	林	呼吸機能障害と理学療法	症例検討
12	講義教室	林	呼吸機能障害と理学療法	症例検討
13	実技教室	林	循環機能障害と理学療法	循環機能評価、フィジカルアセスメント
14	実技教室	林	循環機能障害と理学療法	循環機能評価、フィジカルアセスメント
15	講義教室	林	循環機能障害と理学療法	心電図
16	講義教室	林	循環機能障害と理学療法	心電図
17	講義教室	林	循環機能障害と理学療法	運動生理学評価
18	実技教室	林	循環機能障害と理学療法	運動生理学評価
19	講義教室	林	循環機能障害と理学療法	虚血性心疾患
20	講義教室	林	循環機能障害と理学療法	虚血性心疾患
21	講義教室	林	循環機能障害と理学療法	心不全
22	講義教室	林	循環機能障害と理学療法	心不全
23	講義教室	武市	循環機能障害と理学療法	症例検討
24	講義教室	武市	循環機能障害と理学療法	症例検討
25	講義教室	林	循環機能障害と理学療法	閉塞性動脈硬化症
26	講義教室	林	循環機能障害と理学療法	閉塞性動脈硬化症
27	講義教室	林	代謝障害と理学療法	糖尿病
28	講義教室	林	代謝障害と理学療法	糖尿病
29	講義教室	林	代謝障害と理学療法	慢性腎臓病
30	実技教室	林	代謝障害と理学療法	慢性腎臓病

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	高齢期理学療法学										
担当者氏名	中村 壮大										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	3	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標 (GIO)》

地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割を理解し、高齢者を対象とした理学療法評価や治療立案を実施できることを目的に、高齢者の特性を理解し、各種トレーニングに関する理解を深める。また、行動科学理論に基づいた健康支援（健康増進、疾病予防）を実施できるようになるために、行動科学理論や行動変容技法について理解を深める。

《行動目標 (SBOs)》

- 1) 高齢者に対する筋力、バランス、持久力・歩行など各種トレーニングや、転倒骨折予防などについて説明できる。
- 2) 行動科学理論や行動変容技法について説明できる。

《期末試験実施について》

実施する

（＊期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験100％）

《テキスト》

授業の中で資料を配布する。

《参考図書》

- 1) 島田祐之：高齢者理学療法学。医歯薬出版株式会社。2017.
- 2) 奈良勲：関節可動域。運動と医学の出版社。2023.
- 3) 高齢者理学療法学テキスト，南江堂
- 4) 老人のリハビリテーション，医学書院

《学生の留意点》

- ・医療における臨床や地域における介護予防において、高齢者を対象とした場面は非常に多く、理学療法の知識とスキルはとても役立ちます。
- ・高齢者の特性を理解し、また高齢者特有の疾患を理解すると共に、それらの評価や理学療法について習得することは重要です。
- ・各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は、理学療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	実技教室	中村	高齢者の特徴①	老年症候群，フレイル，サルコペニア，他
2	実技教室	中村	高齢者の特徴②	低栄養，尿失禁，摂食嚥下障害，他
3	実技教室	中村	加齢に伴う変化①	生理機能の変化
4	実技教室	中村	加齢に伴う変化②	体力の変化
5	実技教室	中村	加齢に伴う変化③	姿勢・歩行機能の変化
6	実技教室	中村	加齢に伴う変化④	精神・心理機能の変化
7	実技教室	中村	高齢者の身体機能評価	筋，運動機能，姿勢，歩行機能の評価，他
8	実技教室	中村	高齢者のADL、生活機能評価	ADL評価，生活機能評価，他
9	実技教室	中村	理学療法のエビデンス	高齢者に対する理学療法のエビデンス
10	実技教室	中村	行動科学に基づいた健康支援①	健康増進，疾病予防と行動科学
11	実技教室	中村	行動科学に基づいた健康支援②	行動科学の基礎となる心理学の理論
12	実技教室	中村	行動科学に基づいた健康支援③	動機づけ理論
13	実技教室	中村	行動科学に基づいた健康支援④	健康支援に対する行動変容技法の利活用
14	実技教室	中村	行動科学に基づいた健康支援⑤	個人の健康支援に対する行動科学的アプローチ
15	実技教室	中村	行動科学に基づいた健康支援⑥	集団の健康支援に対する行動科学的アプローチ

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	理学療法技術論										
担当者氏名	複数講師										
授業方法	実技	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	3	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標 (GIO)》

社会で求められる理学療法技術を習得するために、最先端の理学療法技術を学ぶ。

《テキスト》

資料があれば、授業の中で配布する。

《参考図書》

授業中に提示する。

《行動目標 (SBOs)》

各テーマの理学療法技術について、体験できる。

《学生の留意点》

特に指定がない限り、実技練習ができる服装で参加すること。各回の受講に際し、十分な予習・復習を行うこと。

《期末試験実施について》

実施しない

《実務経験のある教員による科目》

実務経験がある理学療法士が担当する。

（＊期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《成績評価の方法》

各回のリフレクションペーパーによって評価する（100％）。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1	講義教室	外部講師	疼痛①	急性疼痛に対する理学療法
2	講義教室	外部講師	疼痛②	慢性疼痛に対する理学療法
3	実技教室	外部講師	気道吸引①	気道吸引
4	実技教室	外部講師	気道吸引②	気道吸引
5	実技教室	外部講師	PNF①	Proprioceptive Neuromuscular Facilitation
6	実技教室	外部講師	PNF②	Proprioceptive Neuromuscular Facilitation
7	実技教室	外部講師	PNF③	Proprioceptive Neuromuscular Facilitation
8	実技教室	外部講師	PNF④	Proprioceptive Neuromuscular Facilitation
9	実技教室	外部講師	ロボットリハビリテーション①	ロボットリハビリテーション
10	実技教室	外部講師	ロボットリハビリテーション②	ロボットリハビリテーション
11	実技教室	藤川	バラスポーツ①	バラスポーツの歴史
12	実技教室	藤川	バラスポーツ②	バラスポーツ実技
13	講義教室	外部講師	精神疾患①	精神疾患に対する理学療法（細井）
14	講義教室	外部講師	精神疾患①	精神疾患に対する理学療法（細井）
15	講義教室	外部講師	がんのリハビリテーション①②	がんのリハビリテーションにおける理学療法（市川）

《専門分野 臨床実習》

科目名	臨床実習Ⅲ-A										
担当者氏名	森田 浩章、湯淺 英慈										
授業方法	実習	単位数	7	回数	-	時間数	315	開講年次	3	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										○
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										○
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										○

《一般教育目標(GIO)》

臨床実習Ⅲは、これまでに学内教育および臨床見学実習、臨床実習Ⅰ・Ⅱを通して学んだ各理学療法の理論と実践を最終的に統合し、学習する機会となる。診療参加型臨床実習の中で多くの診療場面を見学、協同参加、実施しながら、理学療法プロセス（臨床思考過程）、治療の実施、治療効果判定等を包括的に学ぶ。特に経験症例のまとめでは理学療法プロセスを中心にまとめをおこなう。

《テキスト》

《参考図書》

《行動目標(SBOs)》

1. 検査結果の解釈を具体的に述べることができる。
2. 基本動作の介助が行える。
3. 対象者に合った問題点抽出・目標設定・プログラム立案を行える。
4. 治療プログラムを実施/変更できる。
5. 対象者に対し検査測定や治療に関するガイダンスを実施できる。
6. 対象者や臨床実習指導者・スタッフに対して適切な人間関係を構築することができる。
7. 基本的医療コミュニケーションを実践できる。

《学生の留意点》

《期末試験実施について》

実施しない

（※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における理学療法士が、その実務経験を活かした科目となっている。

《成績評価の方法》

最終的な単位認定は、臨床実習指導者による臨床評価と実習後セミナー、臨床実習ポートフォリオの内容を総合的に勘案して学院が決定します。評定は「優」・「良」・「可」・「不可」の4段階で行います。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1				・昼間部：3年次 8～10月の7週間（45h*7） ・診療参加型臨床実習教育。
2				・実習指導者に帯同し、業務の周辺より参加させて頂く。
3				・対象者への侵襲程度が低いレベルから、徐々に、情報収集、検査測定、臨床推論、治療プログラム立案の一連の評価過程を実習する。
4				・教育評価はOSCEを実習前に実施し、実習の成果を実習後、評価する。
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

《専門分野 臨床実習》

科目名	臨床実習Ⅲ-A										
担当者氏名	森田 浩章、湯浅 英慈										
授業方法	実習	単位数	7	回数	—	時間数	315	開講年次	3	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1	人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									○
	DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
	DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									○
	DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									○

《一般教育目標(GIO)》

臨床実習Ⅲは、これまでに学内教育および臨床見学実習、臨床実習Ⅰ・Ⅱを通して学んだ各理学療法の理論と実践を最終的に統合し、学習する機会となる。診療参加型臨床実習の中で多くの診療場面を見学、協同参加、実施しながら、理学療法プロセス（臨床思考過程）、治療の実施、治療効果判定等を包括的に学ぶ。特に経験症例のまとめでは治療プログラムの実施を中心にまとめをおこなう。

《テキスト》

《参考図書》

《行動目標(SBOs)》

1. 検査結果の解釈を具体的に述べることができる。
2. 基本動作の介助が行える。
3. 対象者に合った問題点抽出・目標設定・プログラム立案を行える。
4. 治療プログラムを実施/変更できる。
5. 対象者に対し検査測定や治療に関するリエンションを実施できる。
6. 対象者や臨床実習指導者・スタッフに対して適切な人間関係を構築することができる。
7. 基本的医療コミュニケーションを実践できる。

《学生の留意点》

《期末試験実施について》

実施しない

（※期末試験を実施する科目については、試験未受験の場合、評価を受けることができない。）

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における理学療法士が、その実務経験を活かした科目となっている。

《成績評価の方法》

最終的な単位認定は、臨床実習指導者による臨床評価と実習後セミナー、臨床実習ポートフォリオの内容を総合的に勘案して学院が決定します。評価は「優」・「良」・「可」・「不可」の4段階で行います。

《授業計画》

回	使用教室	担当者	テーマ	学習内容
1				・昼間部：3年次 8～10月の7週間（45h*7） ・診療参加型臨床実習教育。
2				・実習指導者に帯同し、業務の周辺より参加させて頂く。
3				・対象者への侵襲程度が低いレベルから、徐々に、情報収集、検査測定、臨床推論、治療プログラム立案の一連の評価過程を実習する。
4				・教育評価はOSCEを実習前に実施し、実習の成果を実習後、評価する。
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				